

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 7月19日  
Date of Application:

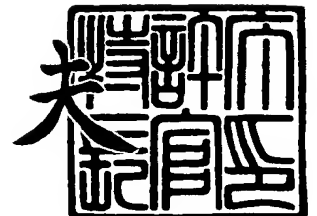
出願番号 特願2002-210423  
Application Number:  
[ST. 10/C]: [JP 2002-210423]

出願人 三洋電機株式会社  
Applicant(s):

2003年 7月28日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井 康夫



出証番号 出証特2003-3059580

【書類名】 特許願

【整理番号】 02G19P2770

【提出日】 平成14年 7月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G11B 15/02

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会  
社内

    【氏名】 山城 啓秀

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府守口市京阪本通 2 丁目 5 番 5 号 三洋電機株式会  
社内

    【氏名】 谷村 啓

【特許出願人】

    【識別番号】 000001889

    【氏名又は名称】 三洋電機株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100090181

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 山田 義人

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 014812

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書  
【発明の名称】 画像記録システム  
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数のカメラから与えられた複数の画像信号を選択的に出力するマルチプレクサと前記マルチプレクサから出力された画像信号を記録媒体に記録する記録装置とを備える画像記録システムにおいて、

前記マルチプレクサは、

前記複数のカメラの各々を時分割で選択する選択手段、および

前記選択手段によって選択されたカメラから出力された画像信号に任意のタイミングで記録要求信号を付加する付加手段を備え、

前記記録装置は、

前記マルチプレクサから出力された画像信号に前記記録要求信号が付加されているとき当該画像信号を前記記録媒体に記録する記録手段を備えることを特徴とする、画像記録システム。

【請求項 2】

前記マルチプレクサは前記複数のカメラの各々について記録レートの設定を受け付ける受付手段をさらに備え、

前記任意のタイミングは前記受付手段によって受け付けた記録レート設定に従うタイミングである、請求項 1 記載の画像記録システム。

【請求項 3】

前記マルチプレクサは、アラームの発生状態に応じてプリアラーム記録およびポストアラーム記録のいずれか一方を示す記録モード情報を生成する記録モード情報生成手段をさらに備え、

前記記録要求信号は前記記録モード情報生成手段によって生成された記録モード情報を含む、請求項 1 または 2 記載の画像記録システム。

【請求項 4】

前記記録媒体はプリアラーム領域およびポストアラーム領域を有し、

前記記録手段は、前記記録要求信号から前記記録モード情報を検出する検出手

段、前記検出手段によって検出された記録モード情報がプリアラーム記録を示すとき前記画像信号を前記プリアラーム領域に記録するプリアラーム記録手段、および検出手段によって検出された記録モード情報がポストアラーム記録を示すとき前記画像信号を前記ポストアラーム領域に記録するポストアラーム記録手段を含む、請求項 3 記載の画像記録システム。

#### 【請求項 5】

前記選択手段はポストアラーム記録を行うとき特定のカメラを優先的に選択する、請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の画像記録システム。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

#### 【発明の属する技術分野】

この発明は、画像記録システムに関し、特にたとえば監視カメラシステムに適用され、複数のカメラから与えられた複数の画像信号を選択的に出力するマルチプレクサとマルチプレクサから出力された画像信号を記録媒体に記録する記録装置とを備える、画像記録システムに関する。

##### 【0002】

#### 【従来技術】

従来のこの種の監視カメラシステムでは、マルチプレクサは、複数のカメラの各々を所定フレーム数ずつ時分割で選択し、選択された監視カメラから出力された画像信号を所定周期で抽出していた。そして、記録装置は、マルチプレクサから出力された画像信号をビデオテープのような記録媒体に記録していた。

##### 【0003】

#### 【発明が解決しようとする課題】

しかし、従来技術では、記録媒体がビデオテープであるゆえに、画像信号の抽出周期は固定としなければならず、抽出周期をカメラ毎に任意に変更することはできなかった。つまり、画像信号の抽出周期を変更すると、画像信号を適切に記録することができなかった。

##### 【0004】

それゆえに、この発明の主たる目的は、任意の画像信号のみを記録媒体に的確

に記録することができる、画像記録システムを提供することである。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

この発明は、複数のカメラから与えられた複数の画像信号を選択的に出力するマルチプレクサとマルチプレクサから出力された画像信号を記録媒体に記録する記録装置とを備える画像記録システムにおいて、マルチプレクサは、複数のカメラの各々を時分割で選択する選択手段、および選択手段によって選択されたカメラから出力された画像信号に任意のタイミングで記録要求信号を付加する付加手段を備え、記録装置は、マルチプレクサから出力された画像信号に記録要求信号が付加されているとき当該画像信号を記録媒体に記録する記録手段を備えることを特徴とする、画像記録システムである。

#### 【0006】

##### 【作用】

マルチプレクサは、複数のカメラから与えられた複数の画像信号を選択的に出力し、記録装置は、マルチプレクサから出力された画像信号を記録媒体に記録する。具体的には、マルチプレクサは、複数のカメラの各々を時分割で選択し、選択されたカメラから出力された画像信号に任意のタイミングで記録要求信号を付加する。記録装置は、マルチプレクサから出力された画像信号に記録要求信号が付加されているとき、当該画像信号を記録媒体に記録する。

#### 【0007】

マルチプレクサが複数のカメラの各々について記録レートの設定を受け付ける場合、任意のタイミングは受け付けた記録レート設定に従うタイミングである。

#### 【0008】

マルチプレクサがアラームの発生状態に応じてプリアラーム記録およびポストアラーム記録のいずれか一方を示す記録モード情報を生成する場合、記録要求信号には当該記録モード情報が含まれる。

#### 【0009】

好ましくは、記録媒体は、プリアラーム領域およびポストアラーム領域を有する。このとき、記録手段は、記録要求信号から記録モード情報を検出する。さら

に、検出した記録モード情報がプリアラーム記録を示すときは画像信号をプリアラーム領域に記録し、検出した記録モード情報がポストアラーム記録を示すときは画像信号をポストアラーム領域に記録する。

#### 【0010】

マルチプレクサは、ポストアラーム記録を行うとき特定のカメラを優先的に選択するようにしてもよい。

#### 【0011】

##### 【発明の効果】

この発明によれば、記録要求信号がマルチプレクサによって任意のタイミングで画像信号に付加され、記録要求信号が付加された画像信号が記録装置によって記録媒体に記録される。このため、任意の画像信号のみを記録媒体に的確に記録することができる。

#### 【0012】

この発明の上述の目的、その他の目的、特徴および利点は、図面を参照して行う以下の実施例の詳細な説明から一層明らかとなろう。

#### 【0013】

##### 【実施例】

図1を参照して、この実施例の監視カメラシステム10は、センサS1～S16が個別に割り当てられた16個の監視カメラC1～C16と、マルチプレクサ14およびH D R (Hard Disc Recorder) 16が一体となったビデオレコーダ12と、モニタ22とによって形成される。

#### 【0014】

監視カメラC1～C16は、互いに異なる位置に設置され、撮影画像信号1～16を個別に出力する。また、センサS1～S16はそれぞれ、監視カメラC1～C16によって撮影される被写界の動きを検知し、異常な動きが発生したときにアラーム1～16を発生する。撮影画像信号1～16およびアラーム1～16は、マルチプレクサ14に与えられる。

#### 【0015】

監視カメラC1～C16の各々の撮影レートは60 f p s (field per second

）であり、撮影画像信号 1～16 は 1 秒間に 60 フィールド（60 画面）の割合で監視カメラ C1～C16 から出力される。ただし、監視カメラ C1～C16 は互いに独立して動作し、撮影画像 1～16 の間で位相が一致する保証はない。

#### 【0016】

マルチプレクサ 14 は、図 2 に示すように構成される。電源が投入されると、メイン CPU 26 は、メニューレジスタ 26c の画像記録モード設定とアラーム 1～16 の発生状態とに基づいて、カメラ切換回路 22a および 22b と画像処理回路 24a および 24b とを制御する。

#### 【0017】

カメラ切換回路 22a および画像処理回路 24a は、4 フィールドを 1 サイクルとして動作し、カメラ切換回路 22b および画像処理回路 24b もまた、4 フィールドを 1 サイクルとして動作する。ただし、図 3 に示すように、カメラ切換回路 22a および画像処理回路 24a の動作とカメラ切換回路 22b および画像処理回路 24b の動作との間では、2 フィールドのずれが存在する。

#### 【0018】

カメラ切換回路 22a および 22b は、1 サイクルを形成する第 1 フィールドにおいて監視カメラの選択を切り換え、次の 1 サイクルの第 1 フィールドまで同じ監視カメラを選択し続ける。監視カメラ C1～C16の間では同期がとられていないが、4 フィールド期間にわたって同じ監視カメラを選択し続けることで、当該監視カメラから出力された 2 フィールド分の撮影画像信号を確実に取り込むことができる。カメラ切換回路 22a から画像処理回路 24a に与えられた 2 フィールドの撮影画像信号は、メモリ制御回路 241a によってメモリ 242a に書き込まれる。また、カメラ切換回路 22b から画像処理回路 24b に与えられた 2 フィールドの撮影画像信号は、メモリ制御回路 241b によってメモリ 242b に書き込まれる。

#### 【0019】

テストパターン生成回路 243a および 243b は、第 4 フィールドにおいて常にテストパターン画像信号を出力し、第 1 フィールドにおいて画像記録モード設定に応じてテストパターン画像信号を出力する。また、メモリ制御回路 241

a および 241b は、第1フィールドにおいて、画像記録モード設定に応じてメモリ242から奇数フィールドの撮影画像信号を読み出す。つまり、第4フィールドではテストパターン画像信号が必ず出力されるが、第1フィールドでは画像記録モード設定に従ってテストパターン画像信号または撮影画像信号が出力される。

#### 【0020】

図3に示すように、画像処理回路24aおよび24bの間では2フィールドのずれが存在する。このため、第1フィールド～第4フィールドのいずれにおいても、テストパターン画像信号および撮影画像信号のいずれか一方が、マルチプレクサ14から出力される。なお、撮影画像信号が出力されるフィールドを“記録フィールド”と定義し、テストパターン画像信号が出力されるフィールドを“不要フィールド”と定義する。

#### 【0021】

画像記録モードとしては、プリアラーム記録モード、ポストアラーム記録モードおよびノーマル記録モードがある。プリアラーム記録モードおよびノーマル記録モードはアラーム1～16のいずれも発生しないときに有効化される記録モードであり、ポストアラーム記録モードはアラーム1～16のいずれか1つが発生したときに有効化される記録モードである。

#### 【0022】

VBI挿入回路244aおよび244bはそれぞれ、IDビット、記録ビット、プリアラームビットおよびポストアラームビットが設けられたVBI (Vertical Blanking Interval) 信号を生成し、メモリ241aおよび241bから出力された撮影画像信号またはテストパターン生成回路243aおよび243bによって生成されたテストパターン画像信号に当該VBI信号を多重する。

#### 【0023】

ここで、IDビットは、画像信号の種類を識別するビットである。撮影画像信号に多重されるVBI信号のIDビットは、当該撮影画像信号を出力したカメラのID (“1”～“16”のいずれか1つ)を示す。これに対して、テストパターン画像信号に多重されるVBI信号のIDビットは、不定(=\*)とされる。



**【0024】**

記録ビットは、画像信号が記録フィールドおよび不要フィールドのいずれの信号であるかを識別するビットであり、“1”が記録フィールドを示し、“0”が不要フィールドを示す。撮影画像信号に多重されるVBI信号の記録ビットは“1”とされ、テストパターン画像信号に多重されるVBI信号の記録ビットは“0”とされる。

**【0025】**

プリアラームビットおよびポストアラームビットは、画像信号の記録モードを識別するビットである。プリアラーム記録モードに対応する撮影画像信号に多重されるVBI信号は、プリアラームビットとして“1”を有し、ポストアラームビットとして“0”を有する。また、ポストアラーム記録モードに対応する撮影画像信号に多重されるVBI信号は、プリアラームビットとして“0”を有し、ポストアラームビットとして“1”を有する。さらに、ノーマル記録モードに対応する撮影画像信号に多重されるVBI信号は、プリアラームビットとして“0”を有し、ポストアラームビットとして“0”を有する。

**【0026】**

アラーム1～16のいずれも発生していないときに生成されたテストパターン画像信号には、プリアラームビットおよびポストアラームビットのいずれも不定(=\*)のVBI信号が多重される。一方、アラーム1～16のいずれかが発生しているときに生成されたテストパターン画像信号には、プリアラームビットが“0”でポストアラームビットが“1”のVBI信号が多重される。

**【0027】**

なお、上述のIDビット、記録ビット、プリアラームビットおよびポストアラームビットを“VBI情報”と定義する。

**【0028】**

プリアラーム記録モードおよびノーマル記録モードの各々は、メニュー操作によってオン状態およびオフ状態のいずれかに設定される。また、オン状態とされた記録モードについては、いずれの監視カメラの撮影画像信号をいずれの記録レートで記録するかがメニュー操作によって設定される。一方、ポストアラーム記

録モードは常にオン状態とされ、アラームが発生した監視カメラからの撮影画像信号の最大記録レートがメニュー操作によって設定される。

#### 【0029】

たとえば、図4に示すようにノーマル記録モードがオン状態とされるとともにプリアラーム記録モードがオフ状態とされ、図5に示すプログラムP-1がノーマル記録用に選択された場合、マルチプレクサ14では、図6に示す要領で処理が実行される。なお、図5によれば、監視カメラC1およびC2がノーマル記録用の監視カメラとして選択される。また、監視カメラC1の記録レートが7.5 f p s に設定され、監視カメラC2の記録レートが3.75 f p s に設定される。

#### 【0030】

図6を参照して、カメラ切換回路22aは常に監視カメラC1を選択し、カメラ切換回路22bは常に監視カメラC2を選択する。画像処理回路24aは、第1フィールドにおいて撮影画像信号1またはテストパターン画像信号を出力し、第4フィールドにおいてテストパターン画像信号を出力する。また、画像処理回路24bは、第1フィールドにおいて撮影画像信号2またはテストパターン画像信号を出力し、第4フィールドにおいてテストパターン画像信号を出力する。

#### 【0031】

監視カメラC1の記録レートは7.5 f p s であり、監視カメラC2の記録レートは3.75 f p s である。このため、撮影画像信号1は1サイクルに1回の割合で画像処理回路24aから出力され、撮影画像信号2は2サイクルに1回の割合で画像処理回路24bから出力される。

#### 【0032】

画像処理回路24aからの撮影画像信号1またはテストパターン画像信号の出力に先立って、VBI挿入回路244aは、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“0”およびIDビット“1”を有するVBI信号を撮影画像信号1に多重し、記録ビット“0”，プリアラームビット“\*”，ポストアラームビット“\*”およびIDビット“\*”を有するVBI信号をテストパターン画像信号に多重する。また、画像処理回路24bからの撮影画像

信号 2 またはテストパターン画像信号の出力に先立って、VBI 挿入回路 244b は、記録ビット “1”，プリアラームビット “0”，ポストアラームビット “0” および ID ビット “2” を有する VBI 信号を撮影画像信号 2 に多重し、記録ビット “0”，プリアラームビット “\*”，ポストアラームビット “\*” および ID ビット “\*” を有する VBI 信号をテストパターン画像信号に多重する。

#### 【0033】

また、図 7 に示すようにノーマル記録モードおよびプリアラーム記録モードがオン状態とされ、図 7 に示すプログラム P-2 がノーマル記録用に選択されるとともに、図 8 に示すプログラム P-3 がプリアラーム記録用に選択された場合、マルチプレクサ 14 では、図 9 に示す要領で処理が実行される。

#### 【0034】

なお、図 8 によれば、監視カメラ C1 および C2 がノーマル記録の監視カメラとして選択され、監視カメラ C1 の記録レートおよび監視カメラ C2 の記録レートがそれぞれ 7.5 fps および 3.75 fps に設定される。また、図 9 によれば、監視カメラ C3 および C4 がプリアラーム記録の監視カメラとして選択され、監視カメラ C3 の記録レートおよび監視カメラ C4 の記録レートがそれぞれ 7.5 fps および 2.5 fps に設定される。

#### 【0035】

図 10 を参照して、カメラ切換回路 22a は監視カメラ C1 および C2 を 4 フィールド毎に交互に選択し、カメラ切換回路 22b は監視カメラ C3 および C4 を 4 フィールド毎に交互に選択する。画像処理回路 24a は、監視カメラ C1 が選択された 1 サイクルの第 1 フィールドにおいて撮影画像信号 2 またはテストパターン画像信号を出力し、監視カメラ C2 が選択された 1 サイクルの第 1 フィールドにおいて撮影画像信号 1 またはテストパターン画像信号を出力し、そして各々の 1 サイクルの第 4 フィールドにおいてテストパターン画像信号を出力する。また、画像処理回路 24b は、監視カメラ C3 が選択された 1 サイクルの第 1 フィールドにおいて撮影画像信号 4 またはテストパターン画像信号を出力し、監視カメラ C4 が選択された 1 サイクルの第 1 フィールドにおいて撮影画像信号 3 またはテストパターン画像信号を出力し、そして各々の 1 サイクルの第 4 フィールド

ドにおいてテストパターン画像信号を出力する。

#### 【0036】

監視カメラC1の記録レートは7.5fpsであり、監視カメラC2の記録レートは3.75fpsである。このため、撮影画像信号1は、2サイクルに1回の割合で画像処理回路24aから出力され、撮影画像信号2は4サイクルに1回の割合で画像処理回路24aから出力される。また、監視カメラC3の記録レートは7.5fpsであり、監視カメラC4の記録レートは2.5fpsである。このため、撮影画像信号3は2サイクルに1回の割合で画像処理回路24bから出力され、撮影画像信号4は6サイクルに1回の割合で画像処理回路24bから出力される。

#### 【0037】

撮影画像信号1には、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“0”およびIDビット“1”を有するVBI信号がVBI挿入回路244aによって多重され、撮影画像信号2には、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“0”およびIDビット“2”を有するVBI信号がVBI挿入回路244aによって多重される。また、撮影画像信号3には、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“0”およびIDビット“3”を有するVBI信号がVBI挿入回路244bによって多重され、撮影画像信号4には、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“0”およびIDビット“4”を有するVBI信号がVBI挿入回路244bによって多重される。さらに、テストパターン画像信号には、記録ビット“0”，プリアラームビット“\*”，ポストアラームビット“\*”およびIDビット“\*”を有するVBI信号がVBI挿入回路244aまたは244bによって多重される。

#### 【0038】

図3または図6に示すようにアラーム記録モードにおける最大記録レートが30fpsに設定された状態で、まずアラーム5が発生し、続いてアラーム8が発生した場合、カメラ切換回路22aおよび22bならびに画像処理回路24aおよび24bは、図11に示す要領で動作する。

**【0039】**

まずアラーム 5 が発生した時点で、監視カメラ C 5 がカメラ切換回路 22 a および 22 b の両方によって選択される。監視カメラ C 5 から出力された撮影画像信号 5 は、カメラ切換回路 22 a を通して画像処理回路 24 a に入力されるとともに、カメラ切換回路 22 b を通して画像処理回路 24 b に入力される。画像処理回路 24 a および 24 b は、上述と同様に 4 フィールドを 1 サイクルとして動作し、第 1 フィールドにおいて撮影画像信号 5 またはテストパターン画像信号を出力するとともに、第 4 フィールドにおいてテストパターン画像信号を出力する。

**【0040】**

設定された最大記録レートは 30 f p s であるため、いずれのサイクルの第 1 フィールドにおいても、撮影画像信号 5 が出力される。したがって、アラーム 5 のみが発生しているときは、30 f p s の撮影画像信号 5 が得られる。

**【0041】**

アラーム 8 が発生すると、監視カメラ C 8 がカメラ切換回路 22 b によって選択される。このため、アラーム 8 が発生した後は、撮影画像信号 5 に代えて、監視カメラ C 5 から出力された撮影画像信号 8 が、カメラ切換回路 22 b を通して画像処理回路 24 b に入力される。当該撮影画像信号 8 は、各々のサイクルの第 1 フィールドにおいて画像処理回路 24 b から出力される。

**【0042】**

したがって、アラーム 8 の発生と同時に、撮影画像信号 5 の抽出レートは 30 f p s から 15 f p s に低下し、残りの 15 f p s が撮影画像信号 8 に割り当てられる。

**【0043】**

VBI 挿入回路 244 a は、アラーム 5 のみが発生したときならびにアラーム 5 および 8 が発生したときのいずれにおいても、記録ビット “1”，プリアラームビット “0”，ポストアラームビット “1” および ID ビット “5” を有する VBI 信号を撮影画像信号 5 に多重し、記録ビット “0”，プリアラームビット “\*”，ポストアラームビット “1” および ID ビット “\*” を有する VBI 信

号をテストパターン画像信号に多重する。

#### 【0044】

VBI挿入回路244bは、アラーム5が発生したとき、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“1”およびIDビット“5”を有するVBI信号を撮影画像信号5に多重し、記録ビット“0”，プリアラームビット“\*”，ポストアラームビット“1”およびIDビット“\*”を有するVBI信号をテストパターン画像信号に多重する。VBI挿入回路244bはまた、アラーム8が発生したとき、記録ビット“1”，プリアラームビット“0”，ポストアラームビット“1”およびIDビット“8”を有するVBI信号を撮影画像信号8に多重し、記録ビット“0”，プリアラームビット“\*”，ポストアラームビット“1”およびIDビット“\*”を有するVBI信号をテストパターン画像信号に多重する。

#### 【0045】

なお、監視カメラC1～C16から出力された撮影画像信号1～16は、図2に示すカメラ切換回路28にも与えられる。カメラ切換回路28では所望の監視カメラが選択され、選択された監視カメラの撮影画像信号はカメラ切換回路28と表示処理回路30内のメモリ30aとを介して図1に示すモニタ22に出力される。この結果、所望の監視カメラによって撮影されたライブ画像がモニタ画面に表示される。

#### 【0046】

カメラ画像処理回路24aおよび24bの各々から出力された撮影画像信号またはテストパターン画像信号は、図1に示すHDR16に与えられる。HDR16は図12に示すように構成されており、撮影画像信号またはマルチパターン画像信号は、詳しくはビデオエンコーダ32に与えられる。

#### 【0047】

ビデオエンコーダ32は、与えられた撮影画像信号またはマルチパターン画像信号をデジタル信号である撮影画像データまたはマルチパターン画像データに変換する。デジタルI/F34は、ビデオエンコーダ32によって変換された画像データに含まれるVBIデータをRAM36に保存するとともに、当該画像

データ（VBIデータ含む）をメモリ I/F 54 に与える。

【0048】

図13（A）を参照して、SDRAM56は、記録処理用の領域として入力画像領域56a、圧縮画像領域56bおよび管理情報領域56cを有し、入力画像領域56aはバンクA1およびB1によって形成される。デジタルI/F34から出力された各フィールドの画像データは、メモリI/F54によってバンクA1およびB1に交互に書き込まれる。

【0049】

メインCPU42は、RAM36に格納されたVBIデータを解析し、入力画像領域56aに格納された対応する画像データに、解析結果に応じた記録処理を施す。具体的には、VBIデータに含まれる記録ビットが“0”であれば、対応する画像データはテストパターン画像データであるとみなし、当該画像データを無効とする。一方、VBIデータに含まれる記録ビットが“1”であれば、次にプリアラームビットおよびポストアラームビットの状態を判別する。ここで、プリアラームビットおよびポストアラームビットがそれぞれ“1”および“0”であればプリアラーム記録処理を行い、プリアラームビットおよびポストアラームビットがそれぞれ“0”および“1”であればポストアラーム記録処理を行う。また、ノーマル記録操作が行われており、かつプリアラームビットおよびポストアラームビットがいずれも“0”であれば、ノーマル記録処理を行う。

【0050】

いずれの記録処理においても、入力画像領域56aに格納された撮影画像データはメモリI/F54を介してJPEGコーデック46に与えられ、JPEG圧縮を施される。JPEG圧縮によって生成されたJPEGデータは、メモリI/F54を介して圧縮画像領域56bに格納される。また、JPEGデータを管理するための管理情報がメインCPU42によって作成され、管理情報領域56cに格納される。SDRAM56に格納されたJPEGデータおよび管理情報は、メモリI/F54およびドライブI/F48を介してHDD（Hard Disc Drive）50に与えられ、HDD50によってハードディスク52に記録される。

【0051】

図14に示すように、ハードディスク52はノーマル記録領域52aおよびアラーム記録領域52bに区分される。また、ノーマル記録領域52aはノーマルタグ領域52cおよびノーマルデータ領域52dに区分され、アラーム記録領域52bはプリアラーム領域52eおよびポストアラーム領域52fに区分される。さらに、プリアラーム領域52eはプリアラームタグ領域52gおよびプリアラームデータ領域52hに区分され、ポストアラーム領域52fはポストアラームタグ領域52iおよびポストアラームデータ領域52jに区分される。

#### 【0052】

ノーマル記録処理によって得られた管理情報およびJ P E Gデータはノーマルデータ領域52dに記録され、プリアラーム記録処理によって得られた管理情報およびJ P E Gデータはプリアラームデータ領域52hに記録され、そしてポストアラーム記録処理によって得られた管理情報およびJ P E Gデータはポストアラームデータ領域52jに記録される。このとき、互いに関連する管理情報およびJ P E Gデータは、図15(A)に示すように連結される。なお、互いに関連する管理情報およびJ P E Gデータを“フィールドデータ”と定義する。

#### 【0053】

管理情報には、撮影日付、J P E Gサイズ、アラーム番号、カメラID、記録フィールド番号、待ち時間情報などが含まれる。この管理情報は64バイトで表現され、フィールドによってサイズが変動することはない。

#### 【0054】

撮影日付は撮影画像データの取込日付と同じであり、この日付には“分”および“秒”の情報まで含まれる。J P E Gサイズは、関連するJ P E Gデータのサイズである。アラーム番号は、アラームの識別番号であり、ポストアラームデータ領域52jに記録された撮影画像信号の中から所望の監視カメラの撮影画像信号を検索するときに必要なとなる。たとえばアラーム5の発生によってポストアラーム記録が実行された場合、アラーム番号は“5”となる。プリアラーム記録またはノーマル記録が実行されるときは、アラーム番号は不定(=\*)となる。

#### 【0055】

カメラIDは、関連するJ P E Gデータの画像を撮影した監視カメラの識別子



である。記録フィールド番号は、各々の J P E G データに生成順に割り当てられる番号である。待ち時間情報は、前回の J P E G データの生成フィールドから今回の J P E G データの生成フィールドまでの差分であり、各々の J P E G データの再生タイミングを制御するために必要となる。

#### 【0056】

メインCPU42は、1フィールド分の管理情報およびJ P E G データの記録が完了した後、連続する3フィールドの管理情報およびJ P E G データについてアドレス情報を作成する。つまり、メインCPU42は、前フィールドの管理情報の先頭アドレス、前フィールドのJ P E G データの先頭アドレス、現フィールドの管理情報の先頭アドレス、現フィールドのJ P E G データの先頭アドレス、次フィールドの管理情報の先頭アドレスおよび次フィールドのJ P E G データの先頭アドレスを作成する。管理情報は常に64バイトであるため、次フィールドの管理情報の先頭アドレスおよび次フィールドのJ P E G データの先頭アドレスは、現フィールドのJ P E G データの先頭アドレスおよびJ P E G サイズに基づいて算出される。

#### 【0057】

こうして連続する3フィールドのアドレス情報が生成されると、メインCPU42は、当該アドレス情報と現フィールドの管理情報とを含むタグデータを図15(B)に示す要領で作成し、作成したタグデータをHDD50を通してハードディスク52に記録する。図14を参照して、ノーマル記録処理によって得られたタグデータはノーマルタグ領域52cに記録され、プリアラーム記録処理によって得られたタグデータはプリアラームタグ領域52gに記録され、そしてポストアラーム記録処理によって得られたタグデータはポストアラームタグ領域52iに記録される。

#### 【0058】

再生操作が行われると、メインCPU42は、再生すべき画像に関連するタグデータをドライブI/F48およびHDD50を介してハードディスク52から一括して読み出し、読み出したタグデータをメモリI/F54を介してSDRAM56に書き込む。ノーマル記録モードによって記録されたJ P E G データを再

生するときは、ノーマルタグ領域 52c に記録されたタグデータが SDRAM 56 に転送され、プリアラーム記録モードによって記録された J P E G データを再生するときは、プリアラームタグ領域 52g に記録されたタグデータが SDRAM 56 に転送され、そしてポストアラーム記録モードによって記録された J P E G データを再生するときは、ポストアラームタグ領域 52i に記録されたタグデータが SDRAM 56 に転送される。

#### 【0059】

図 13 (B) を参照して、SDRAM 56 には、出力画像領域 56d, 圧縮画像領域 56e, タグデータ領域 56f が再生用の領域として形成される。タグデータは、タグデータ領域 56f に書き込まれる。

#### 【0060】

メイン CPU 42 はさらに、転送されたタグデータに含まれるアドレス情報に基づいて各フィールドの J P E G データを特定し、転送されたタグデータに含まれる待ち時間情報に基づいて各フィールドの J P E G データの再生タイミングを制御する。所望のタイミングでハードディスク 52 から再生された J P E G データは、SDRAM 56 の圧縮画像領域 56e に一旦格納され、その後、J P E G コーデック 46 によって伸長される。J P E G 伸長によって得られた撮影画像データは、SDRAM 56 の出力画像領域 56d を介してビデオデコーダ 38 に与えられ、ビデオデコーダ 38 によってアナログ信号である撮影画像信号に変換される。変換された撮影画像信号は、マルチプレクサ 14 に出力される。

#### 【0061】

図 2 を参照して、HDR 16 から出力された撮影画像信号は、表示処理回路 30 に与えられる。V B I 解析回路 30b は、与えられた撮影画像信号から V B I 信号を抽出し、抽出した V B I 信号の I D ビットを解析する。撮影画像信号をメモリ 30a のどのアドレスに書き込むかは、I D ビットの解析結果によって制御される。メモリ 30a に格納された撮影画像信号はその後モニタ 22 に出力され、この結果、再生画像がモニタ画面に表示される。

#### 【0062】

図 12 を参照して、オペレータの指示は、操作パネル 44 によって受け付けら

れる。具体的には、電源のオン／オフ指示は電源ボタン 44 a によって受け付けられ、ノーマル記録の開始指示は記録ボタン 44 b によって受け付けられ、ノーマル記録の停止指示は記録停止ボタン 44 c によって受け付けられる。また、順方向における通常速度再生の開始指示は再生ボタン 44 d によって受け付けられ、逆方向における通常速度再生の開始指示は逆再生ボタン 44 e によって受け付けられ、再生の停止指示は再生停止ボタン 44 f によって受け付けられる。さらに、図 4 または図 7 に示す記録モードの設定変更、あるいは図 5，図 8 または図 9 に示す記録プログラムの設定変更は、メニューボタン 44 g によって受け付けられる。

#### 【0063】

なお、図 5，図 8 または図 9 に示す記録プログラムの設定変更、つまり選択する監視カメラの追加や記録レートの変更は、処理が破綻しない範囲で認められる。つまり、選択された監視カメラが少ないほど記録レートを高い数値に設定でき、選択される監視カメラが多くなると、設定可能な記録レートが低下する。

#### 【0064】

サブ CPU 40 は、電源ボタン 44 a によってオン操作が行われたとき、H D R 16 の電源をオンするとともに、電源オン情報をマルチプレクサ 14 のメイン CPU 26 に与える。また、記録ボタン 44 b，記録停止ボタン 44 c，再生ボタン 44 d，逆再生ボタン 44 e または再生停止ボタン 44 f が操作されると、サブ CPU 40 は、対応するボタン操作情報をメイン CPU 42 に与える。さらに、メニューボタン 44 g によって設定変更操作が行われると、サブ CPU 40 は、設定変更要求をメイン CPU 26 に与えるとともに、プリアラーム記録モードのオン／オフに関する情報をメイン CPU 42 に与える。

#### 【0065】

マルチプレクサ 14 のメイン CPU 26 は、図 16～図 23 に示すフロー図に従って動作する。なお、このフロー図に対応する制御プログラムは、ROM 26 e に記憶される。

#### 【0066】

まずステップ S 1 で変数 V C N T \_\_ A を “1” にセットし、ステップ S 3 で変

数VCNT\_\_Bを“3”にセットする。これによって、変数VCNT\_\_Aと変数VCNT\_\_Bとの間に2フィールドのずれが生じる。ステップS5では、VBI情報を初期化する。記録ビットは“0”を示し、プリアラームビット、ポストアラームビットおよびIDビットは“\*”を示す。ステップS7では垂直同期信号Vsync1の発生の有無を判別し、YESと判断されると、ステップS9で画像処理制御Aを実行し、ステップS11で画像処理制御Bを実行する。ステップS11の処理が完了すると、ステップS7に戻る。垂直同期信号Vsync1はマルチプレクサ14内で1/60秒に1回の割合で作成される信号であり、ステップS11およびS13は1/60秒毎に実行される。

#### 【0067】

ステップS9の画像処理制御Aは、図17～図18に示すサブルーチンに従う。まず、ステップS21a、S39aおよびS47aで変数VCNT\_\_Aを判別する。VCNT\_\_A=1であればステップS21aでYESと判断し、ステップS23a以降の処理に進む。

#### 【0068】

ステップS23aでは情報レジスタ26aに保存されたVBI情報を含むVBI信号の挿入をVBI挿入回路244aに指示し、続くステップS23aでは当該VBI情報に含まれる記録ビットを判別する。記録ビット=1であればステップS27aに進み、メモリ242aからの奇数フィールドの撮影画像信号の読み出しをメモリ制御回路241aに指示する。一方、記録ビット=0であれば、ステップS29aに進み、テストパターン画像信号の出力をテストパターン信号生成回路243aに指示する。これによって、情報レジスタ26aのVBI情報を含むVBI信号が多重された1フィールド分の撮影画像信号またはテストパターン画像信号が、画像処理回路24aから出力される。

#### 【0069】

ステップS31ではカメラ&VBI決定処理を実行し、ステップS33ではステップS31の処理によって決定されたカメラ情報およびVBI情報を情報レジスタ26aに保存する。ステップS35では、ステップS31の処理によって決定されたカメラ情報に従ってカメラ切換回路22aの設定を切り換える。これに

よって、当該カメラ情報が示す監視カメラからの撮影画像信号がカメラ切換回路 22 a を通して画像処理回路 24 a に入力される。ステップ S 35 a の処理が完了すると、ステップ S 37 a で変数 VCNT\_\_A をインクリメントしてから上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0070】

変数 VCNT が “2” であれば、ステップ S 49 a で YES と判断し、ステップ S 51 a でメモリ 241 a への撮影画像信号の書き込み開始をメモリ制御回路 241 a に指示する。メモリ制御回路 241 a は、カメラ切換回路 22 a から出力された撮影画像信号のメモリ 242 a への書き込みを開始する。ステップ S 51 a の処理が完了すると、ステップ S 53 a で変数 VCNT\_\_A をインクリメントしてから上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0071】

変数 VCNT\_\_A が “3” であれば、ステップ S 49 a で NO と判断する。このときは、ステップ S 53 a における変数 VCNT\_\_A のインクリメント処理を経て上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0072】

変数 VCNT\_\_A が “4” であれば、ステップ S 39 a で YES と判断し、ステップ S 41 a で情報レジスタ 26 a に保存された VBI 情報の挿入を VBI 挿入回路 244 a に指示するとともに、ステップ S 43 a でテストパターン画像信号の出力をテストパターン生成回路 243 a に指示する。画像処理回路 24 a からは、情報レジスタ 26 a の VBI 情報が多重されたテストパターン画像信号が出力される。ステップ S 45 ではメモリ 242 a への撮影画像信号の書き込みの終了をメモリ制御回路 241 a に指示する。これによって、メモリ制御回路 241 a は、カメラ切換回路 22 a を通して取り込まれた撮影画像信号の書き込みを終了する。ステップ S 45 の処理が完了すると、ステップ S 47 a で変数 VCNT\_\_A を “1” にセットしてから上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0073】

ステップ S 11 の画像処理制御 B は図 19～図 20 に示すサブルーチンに従うが、このサブルーチンは、ステップ S 21 b, S 39 b および S 49 b で変数 V

CNT\_\_Bを判別する点、VBI情報およびカメラ情報の保存先が情報レジスタ26bである点、および制御対象がカメラ切換回路22bおよび画像処理回路24bである点を除き、図17～図18に示すサブルーチンと同様であるので、重複した説明は省略する。

#### 【0074】

図17に示すステップS31aおよび図19に示すステップS31bのカメラ&VBI決定処理は、図20に示すサブルーチンに従う。つまり、カメラ&VBI決定処理は、共通のサブルーチンに従って実行される。

#### 【0075】

まずステップS61で、設定変更要求がHDR16から入力されたかどうか判断する。設定変更要求が入力されなければそのままステップS65に進むが、設定変更要求が入力されたときはステップS63でメニューレジスタ26cの設定を変更してからステップS65に進む。ステップS65ではアラーム発生状態であるかどうか判別し、アラーム非発生状態であれば、ステップS67～S71の各々で記録モード設定を判別する。

#### 【0076】

ノーマル記録モードおよびプリアラーム記録モードのいずれもオン状態と判断されると、ステップS67でYESと判断し、ステップS73に進む。ノーマル記録モードがオン状態でかつプリアラーム記録モードがオフ状態と判断されると、ステップS69でYESと判断し、ステップS77に進む。ノーマル記録モードがオフ状態でかつプリアラーム記録モードがオン状態と判断されると、ステップS71でYESと判断し、ステップS85に進む。ノーマル記録モードおよびプリアラーム記録モードのいずれもオフ状態であれば、ステップS71でNOと判断し、ステップS91に進む。

#### 【0077】

ステップS73では変数N/P\_\_FLAGの状態を判別し、N/P\_\_FLAG=NであればステップS75に、N/P\_\_FLAG=PであればステップS73にそれぞれ進む。変数N/P\_\_FLAGは、ノーマル記録およびプリアラーム記録のいずれを行うべきかを判別するための変数であり、“N”はノーマル記録を示

し、“P”はプリアラーム記録を示す。

#### 【0078】

ステップS75では、次のステップS73の処理でNOとの判断結果を得るために、変数N/P\_FLAGを“N”から“P”に変更する。続くステップS77では、カメラ決定を行う。具体的には、ノーマル記録モードで選択されている監視カメラの中から、次の1サイクルに有効化する監視カメラを決定する。

#### 【0079】

ステップS79では、決定された監視カメラの記録レートに基づいて、次のサイクルの第1フィールドが記録フィールドおよび不要フィールドのいずれであるかを判別する。記録フィールドと判別されると、ステップS81でVBI情報を決定する。決定されたVBI情報には、記録ビット、プリアラームビットおよびポストアラームビットとして“1”，“0”および“0”が含まれ、IDビットとしてステップS77で決定された監視カメラの識別子が含まれる。一方、ステップS79で不要フィールドと判別されると、ステップS91でVBI情報を決定する。決定されたVBI情報の記録ビットは“0”を示し、プリアラームビット、ポストアラームビットおよびIDビットは“\*”を示す。ステップS81またはS91の処理を終えると、上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0080】

ステップS83では、次のステップS73でYESとの判断結果を得るために、変数N/P\_FLAGを“N”に設定する。ステップS85では、ステップS77と同じ要領でカメラ決定を行う。これによって、プリアラーム記録モードで選択されている監視カメラの中から、次の1サイクル期間に有効化すべき監視カメラが決定される。

#### 【0081】

ステップS87では、決定された監視カメラの記録レートに基づいて、次のサイクルの第1フィールドが記録フィールドおよび不要フィールドのいずれであるかを判別する。記録フィールドと判別されると、ステップS89でVBI情報を決定する。決定されたVBI情報には、記録ビット、プリアラームビットおよびポストアラームビットとして“1”，“1”および“0”が含まれ、IDビット

としてステップS 8 5で決定された監視カメラの識別子が含まれる。ステップS 8 7で不要フィールドと判別されたときは、ステップS 9 1でV B I 情報を決定する。ステップS 8 9またはS 8 9の処理を終えると、上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0082】

変数V C N T \_\_AおよびV C N T \_\_Bの間には2フィールドのずれがあり、かつカメラ&V B I 決定処理はV C N T \_\_A=1のときおよびV C N T \_\_B=1のときに実行される。このため、ステップS 7 3における変数N / P \_F L A Gの判別は2フィールド毎に行われ、ステップS 7 5またはS 8 3における変数N / P \_F L A Gの更新もまた2フィールド毎に行われる。これによって、図7～図9に示す記録モード設定が行われたときは、図10に示すように2フィールド毎に監視カメラが切り換えられる。

#### 【0083】

図21に示すステップS 6 5でアラーム発生状態と判別されると図23に示すステップS 9 3に進み、現時点で発生しているアラームに変動（増加または減少）が生じたかどうか判断する。ここで変動がなければそのままステップS 9 7に進むが、変動が生じるとステップS 9 5でカメラリスト26dを更新してからステップS 9 7に進む。ステップS 9 5では、具体的には、新規アラームが発生すると当該アラームに対応する監視カメラをカメラリスト26dに追加し、アラームが停止すると当該アラームに対応する監視カメラをカメラリスト26dから削除する。したがって、カメラリスト26dには、現時点でアラームが発生している監視カメラが登録される。ステップS 9 7では、かかるカメラリスト26dの中から次のサイクルで有効化する監視カメラを決定する。

#### 【0084】

ステップS 9 9では、決定された監視カメラの記録レートに基づいて、次のサイクルの第1フィールドが記録フィールドおよび不要フィールドのいずれであるかを判別する。記録フィールドと判別されると、ステップS 101でV B I 情報を決定する。決定されたV B I 情報には、記録ビット、プリアラームビットおよびポストアラームビットとして“1”，“0”および“1”が含まれ、I D ビッ



トとしてステップS 97で決定された監視カメラの識別子が含まれる。ステップS 99で不要フィールドと判別されたときは、ステップS 103でVBI情報を決定する。決定されたVBI情報には、記録ビット、プリアラームビット、ポストアラームビットおよびIDビットとして、“0”，“0”，“1”および“\*”が含まれる。ステップS 101またはS 103の処理を終えると、上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0085】

HDR 16のメインCPU 42は、図17および図25に示すフロー図に従って動作する。メインCPU 42は、 $\mu$ ITRONのようなリアルタイムOSを搭載したマルチタスクCPUであり、図24～図27に示すメインタスク、図28および図29に示すノーマル記録タスク、図30～図32に示すアラーム記録タスク、ならびに図33および図34に示す再生タスクは、互いに並行して実行される。なお、このフロー図に対応する制御プログラムは、ROM 42aに記憶される。

#### 【0086】

まず図24を参照して、ステップS 201ではプリアラーム記録モードのオン／オフを判別し、ステップS 213では変数ALMREC\_FLAGおよびPOSTALM\_FLAGの状態を判別し、ステップS 205ではALMREC\_FLAGの状態を判別する。ここで、変数ALMREC\_FLAGはアラーム記録タスクが起動しているかどうかを判別するための変数であり、“0”が停止状態を示し、“1”が起動状態を示す。変数POSTALM\_FLAGはプリアラーム記録およびポストアラーム記録のいずれが実行されているかを判別するための変数であり、“0”がプリアラーム記録を示し、“1”がポストアラーム記録を示す。

#### 【0087】

プリアラーム記録モードがオン設定でかつ変数ALMREC\_FLAGが“0”であれば、電源投入直後か、プリアラーム記録モードがオフ設定からオン設定に変更された直後とみなし、ステップS 207で変数ALMREC\_FLAGを“1”に設定し、ステップS 209でPOSTALM\_FLAGを“0”に設定

し、ステップS 2 1 1でアラーム記録タスクを起動する。ステップS 2 1 1の処理が完了すると、ステップS 2 0 1に戻る。

#### 【0088】

プリアラーム記録モードがオフ設定であるにも係わらず、変数ALMREC\_\_FLAGが“1”で、変数POSTALM\_\_FLAGが“0”であれば、プリアラーム記録モードがオン設定からオフ設定に変更された直後であるとみなし、ステップS 2 1 4で変数ALMRECEND\_\_FLAGを“1”に設定する。変数ALMRECEND\_\_FLAGはアラーム記録タスクの終了または継続を要求するための変数であり、“1”が終了要求を示し、“0”が継続要求を示す。ステップS 2 1 4で変数ALMRECEND\_\_FLAGが“1”に設定されることで、後述するようにアラーム記録タスクが終了する。ステップS 2 1 4の処理が完了すると、ステップS 2 0 1に戻る。

#### 【0089】

プリアラーム記録モードがオン設定でかつアラーム記録タスクが起動済みである場合は、ステップS 2 0 1およびS 2 0 5を介してステップS 1 1 5に進む。プリアラーム記録モードがオフ設定でかつアラーム記録タスクが停止状態である場合、あるいはプリアラーム記録モードがオフ設定でかつアラーム記録タスクによってポストアラーム記録が実行中であるときは、ステップS 2 0 1およびS 2 1 3を介してステップS 2 1 5に進む。

#### 【0090】

ステップS 2 1 5では変数ALMSTRT\_\_FLAGの状態を判別する。変数ALMSTRT\_\_FLAGはアラームが発生したかどうかを判別するための変数であり、“0”がアラーム未発生状態を示し、“1”がアラーム発生状態を示す。なお、変数ALMSTRT\_\_FLAGの“0”から“1”への更新は、別タスク（図示せず）によって行われる。つまり、VBI情報に含まれるポストアラームビットの“0”から“1”への変更が別タスクによって検出されたときに、変数ALMSTRT\_\_FLAGが“0”から“1”に更新される。

#### 【0091】

ステップS 2 1 5でYESと判断されると、ステップS 2 1 9で変数ALMS

TRT\_FLAGを“0”に戻し、ステップS221で変数ALMREC\_FLAGおよびPOSTALM\_FLAGの状態を判別する。アラーム記録タスクが起動済みでかつプリアラーム記録が実行中であれば、変数ALMREC\_FLAGは“1”を示し、変数POSTALM\_FLAGは“0”を示す。このときはステップS221でYESと判断し、ステップS223で変数POSTALM\_FLAGを“0”から“1”に変更する。これによって、アラーム記録タスクにおける記録処理がプリアラーム記録からポストアラーム記録に変更される。ステップS223の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

#### 【0092】

一方、プリアラーム記録モードがオフ設定であるためにアラーム記録タスクが起動していなければ、変数ALMREC\_FLAGは“0”を示す。このときは、ステップS225で変数POSTALM\_FLAGを“1”に設定し、ステップS227で変数ALMREC\_FLAGを“1”に設定し、そしてステップS229でアラーム記録タスクを起動する。ステップS229の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

#### 【0093】

ステップS215でNOと判断されると、ステップS217で変数ALMSTOP\_FLAGの状態を判別する。変数ALMSTOP\_FLAGはアラームが停止したかどうかを判別するための変数であり、“0”がアラーム発生状態を示し、“1”がアラーム停止状態を示す。

#### 【0094】

なお、変数ALMSTOP\_FLAGの“0”から“1”への更新もまた、別タスク（図示せず）によって行われる。つまり、VBI情報に含まれるポストアラームビットの“1”から“0”への変更が別タスクによって検出されたときに、変数ALMSTRT\_FLAGが“1”から“0”に更新される。

#### 【0095】

ステップS217でYESと判断されると、ステップS231で変数ALMSTOP\_FLAGを“0”に戻し、ステップS233でプリアラーム記録モードのオン／オフ設定を判別する。プリアラーム記録モードがオン設定のときは、ス

ステップS243で変数POSTALM\_FLAGを“1”から“0”に戻す。これによって、アラーム記録タスクにおける記録処理がポストアラーム記録からプリアラーム記録に切り換えられる。ステップS243の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

#### 【0096】

プリアラーム記録モードがオフ設定のときは、ステップS233でNOと判断し、アラーム記録タスクの終了を要求するべく、ステップS235で変数ALMRECEND\_FLAGを“1”に設定する。続くステップS237では、変数RSV\_FLAGが“1”であるかどうか判別する。変数RSV\_FLAGはポストアラーム記録が完了した後のノーマル記録の開始が予約されているかどうかを判別するための変数であり、“1”が予約ありを示し、“0”が予約なしを示す。

#### 【0097】

ステップS237でNOと判断されると、そのままステップS201に戻る。一方、ステップS237でYESと判断されたときは、ステップS239で変数RSV\_FLAGを“0”に戻し、ステップS240で変数NRMLREC\_FLAGを“1”に設定し、そしてステップS241でノーマル記録タスクを起動する。ここで、変数NRMLREC\_FLAGは、ノーマル記録タスクの起動／停止を判別するための変数であり、“1”が起動状態を示し、“0”が停止状態を示す。ステップS241の処理が完了すると、ステップS101に戻る。

#### 【0098】

ステップS217でNOと判断されると、図19に示すステップS245で記録ボタン44bの操作の有無を判別する。ここでYESであればステップS247に進み、変数NRMLREC\_FLAGの状態を判別する。NRMLREC\_FLAG=1であれば、ノーマル記録タスクは起動済みであるとみなし、ステップS247からステップS201に戻る。一方、NRMLREC\_FLAG=0であれば、ノーマル記録タスクは停止状態であるとみなし、ステップS249で変数ALMREC\_FLAGおよびPOSTALM\_FLAGの状態を判別する。

。

## 【0099】

アラーム記録タスクが起動していなければ、変数ALMREC\_FLAGは“0”を示す。また、アラーム記録タスクは起動しているがプリアラーム記録が実行中であれば、変数ALMREC\_FLAGおよびPOSTALM\_FLAGはそれぞれ、“1”および“0”を示す。このときは、ステップS249でYESと判断し、ステップS250で変数NRMLREC\_FLAGを“1”に設定するとともに、ステップS251でノーマル記録タスクを起動する。ステップS251の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

## 【0100】

一方、アラーム記録タスクにおいてポストアラーム記録が実行中であれば、変数ALMREC\_FLAGおよびPOSTALM\_FLAGはいずれも“1”を示す。このときは、ステップS253で変数RSV\_FLAGを“1”に設定してからステップS201に戻る。

## 【0101】

ステップS255では記録停止ボタン44cの操作の有無を判別し、YESと判断されると、ステップS257で変数NRMLREC\_FLAGの状態を判別する。NRMLREC\_FLAG=0であれば、ノーマル記録タスクは停止状態であるとみなし、そのままステップS201に戻る。これに対して、NRMLREC\_FLAG=0であれば、ノーマル記録タスクが起動状態であるとみなし、ステップS259で変数NRMLRECECEND\_FLAGを“1”に設定する。変数NRMLRECECEND\_FLAGは、ノーマル記録タスクの終了または継続を要求するための変数であり、“1”が終了要求を示し、“0”が継続要求を示す。ステップS259で変数NRMLRECECEND\_FLAGが“1”に設定されることで、後述するようにノーマル記録タスクが終了する。ステップS259の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

## 【0102】

ステップS255でNOと判断されると、図20に示すステップS261で再生ボタン44dの操作の有無を判別する。ここでYESと判断されると、ステップS265で変数PLAY\_FLAGおよびDRCT\_FLAGの状態を判別す

る。変数PLAY\_FLAGは再生タスクの起動／停止を判別するための変数であり、“1”が起動を示し、“0”が停止を示す。また、変数DRCT\_FLAGは再生方向を判別するための変数であり、“0”が順方向を示し、“1”が逆方向を示す。

#### 【0103】

再生タスクによって順方向再生が実行中であれば、変数PLAY\_FLAGおよびDRCT\_FLAGのいずれも“1”を示す。このときは、ステップS265でYESと判断し、そのままステップS201に戻る。一方、再生タスクが停止状態であれば、変数PLAY\_FLAGは“0”を示し、再生タスクによって逆方向再生が実行中であれば、変数PLAY\_FLAGは“1”を示し、変数DRCT\_FLAGは“0”を示す。このようなときは、ステップS265でNOと判断し、ステップS267で変数DRCT\_FLAGを“1”に設定する。

#### 【0104】

ステップS273では変数PLAY\_FLAGの状態を判別する。ここでPLAY\_FLAG=1であれば、再生タスクは起動済みであるとみなし、そのままステップS201に戻る。一方、PLAY\_FLAG=0であれば、再生タスクが停止状態であるとみなし、ステップS275で変数PLAY\_FLAGを“1”に変更し、ステップS277で再生タスクを起動する。ステップS277の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

#### 【0105】

ステップS263では逆再生ボタン44eの操作の有無を判別し、YESであれば、ステップS269で変数PLAY\_FLAGおよびDRCT\_FLAGの状態を判別する。再生タスクによって逆方向再生が実行中であれば、変数PLAY\_FLAGは“1”を示し、変数DRCT\_FLAGは“0”を示す。このときは、ステップS269でYESと判断し、そのままステップS201に戻る。一方、再生タスクが停止状態であるときは、変数PLAY\_FLAGは“0”を示し、再生タスクによって順方向再生が実行中であれば、変数PLAY\_FLAGおよびDRCT\_FLAGのいずれも“1”を示す。このようなときは、ステップS269でNOと判断し、ステップS271で変数DRCT\_FLAGを“

0”に設定してからステップS273に進む。

#### 【0106】

ステップS279では再生停止ボタン44fの操作の有無を判別し、YESであれば、ステップS281で変数PLAY\_FLAGの状態を判別する。PLAY\_FLAG=0であれば、再生タスクは停止状態であるとみなし、そのままステップS201に戻る。一方、PLAY\_FLAG=1であれば、再生タスクは起動状態であるとみなし、ステップS283で変数PLAYEND\_FLAGを“1”に設定する。変数PLAYEND\_FLAGは再生タスクの継続または終了を要求するための変数であり、“0”が継続要求を示し、“1”が終了要求を示す。ステップS283で変数PLAYEND\_FLAGが“1”に設定されることで、後述するように再生タスクが停止する。ステップS283の処理が完了すると、ステップS201に戻る。

#### 【0107】

図28を参照して、ノーマル記録タスクでは、まずステップS291で垂直同期信号Vsync2の発生の有無を判別する。垂直同期信号Vsync2は、HDR16内で1/30秒に1回の割合で発生するタイミング信号である。このため、ステップS291では1/30秒毎にYESと判断される。ステップS293では、図12に示すRAM36からVBI情報を取得し、続くステップS295～S299では取得したVBI情報の値をそれぞれ判別する。

#### 【0108】

プリアラームビットおよびポストアラームビットがいずれも“0”で、かつ記録ビットが“1”であれば、ステップS295～S299の全てでYESと判断し、ステップS301におけるノーマル記録用画像記録処理を経てステップS305に進む。これに対して、上述の条件のいずれか1つでも満たされなければ、ステップS303で変数NRMCNTをインクリメントしてからステップS305に進む。変数NRMCNTは、ノーマル記録の対象とならない画像データの連続フィールド数を示す。

#### 【0109】

ステップS305では変数NRMLRECEND\_FLAGの状態を判別し、

NRMLRECEEND\_FLAG=0である限り、ステップS291～S305の処理を繰り返す。NRMLRECEEND\_FLAG=1となると、ステップS305でYESと判断し、ステップS307で変数NRMLRECEEND\_FLAGおよびNRMLREC\_FLAGを“0”に設定する。ステップS307の処理の完了後、再生タスクは停止する。

#### 【0110】

ステップS301における画像記録処理は、図29に示すサブルーチンに従う。まずステップS311aで、図13(A)に示す入力画像領域56aに格納された撮影画像データにJPEG圧縮を施すべく、図12に示すJPEGコーデック46に圧縮処理を命令する。JPEGコーデック46は、メモリI/F54を通して入力画像領域56aから撮影画像データを読み出し、JPEG圧縮によってJPEGデータを生成し、そして生成したJPEGデータをメモリI/F54を介して図13(A)に示す圧縮画像領域56bに書き込む。

#### 【0111】

ステップS313aでは、撮影日付、JPEGサイズ、アラーム番号、カメラID、記録フィールド番号、待ち時間情報などを含む管理情報を作成し、作成した管理情報を図13(A)に示す管理情報領域56cに書き込む。このうち、待ち時間情報は、変数NRMCNT+1に相当する。

#### 【0112】

ステップS315aでは、互いに関連する管理情報およびJPEGデータのノーマルデータ領域52d(図14参照)への記録をHDD50に命令する。互いに関連する管理情報およびJPEGデータは、メモリI/F54およびドライブI/F48を介してHDD50に与えられ、HDD50によってノーマルデータ領域52dに記録される。管理情報およびJPEGデータは、図15(A)に示す要領でノーマルデータ領域52dに記録される。これによって、フィールドデータが形成される。

#### 【0113】

ステップS317aでは前フィールドのアドレス情報を作成し、ステップS319aでは現フィールドのアドレス情報を作成し、そしてステップS321aで



は次フィールドのアドレス情報を作成する。具体的に説明すると、ステップ S 3 1 7 a では前フィールドのフィールドデータについて管理情報の先頭アドレスと J P E G データの先頭アドレス情報とを検出し、ステップ S 3 1 9 a では現フィールドのフィールドデータについて管理情報の先頭アドレスと J P E G データの先頭アドレス情報とを検出し、ステップ S 3 2 1 a では次フィールドのフィールドデータについて管理情報の先頭アドレスと J P E G データの先頭アドレス情報とを検出する。

#### 【0114】

ステップ S 3 2 3 a では、ステップ S 3 1 3 a で作成された管理情報とステップ S 3 1 7 a ~ S 3 2 1 a で検出されたアドレスとを含むタグデータを作成し、作成したタグデータのノーマルタグ領域 5 2 c への記録を HDD 5 0 に要求する。タグデータは、HDD 5 0 によってノーマルタグ領域 5 2 c に記録される。ステップ S 3 2 5 a では変数 NRMLCNT をリセットし、その後上階層のルーチンに復帰する。

#### 【0115】

図 3 0 を参照して、アラーム記録タスクでは、まずステップ S 3 3 1 および S 3 3 3 で上述のステップ S 2 9 1 および S 2 9 3 と同様の処理を実行する。ステップ S 3 3 5 では抽出された V B I 情報に含まれる記録ビットを判別し、記録ビットが “0” であれば、ステップ S 3 3 7 で変数 PRECNT および POSTCNT をインクリメントしてからステップ S 3 5 1 に進む。なお、変数 PRECNT はプリアラーム記録の対象とならない画像データの連続フィールド数を示し、変数 POSTCNT はポストアラーム記録の対象とならない画像データの連続フィールド数を示す。

#### 【0116】

ステップ S 3 3 5 で記録ビットが “1” と判断されると、ステップ S 3 3 9 でプリアラームビットおよびポストアラームビットを判別する。プリアラームビットが “1” でかつポストアラームビットが “0” であれば、ステップ S 3 3 9 で YES と判断し、ステップ S 3 4 1 におけるプリアラーム記録用画像記録処理を経てステップ S 3 5 1 に進む。一方、ステップ S 3 3 9 で NO と判断されると、

ステップS343で変数PRECNTをインクリメントし、ステップS345に進む。

#### 【0117】

ステップS345では、プリアラームビットおよびポストアラームビットを再度判別する。プリアラームビットが“0”でかつポストアラームビットが“1”であれば、ステップS345でYESと判断し、ステップS347におけるポストアラーム記録用画像記録処理を経てステップS351に進む。ステップS345でNOと判断されたときは、ステップS349で変数POSTCNTをインクリメントしてからステップS351に進む。

#### 【0118】

ステップS351では変数ALMRECEND\_FLAGの状態を判別し、ALMRECEND\_FLAG=0である限り、ステップS331～S351の処理を繰り返す。ALMRECEND\_FLAG=1となると、ステップS353で変数ALMRECEND\_FLAGおよびALMREC\_FLAGを“0”に設定する。ステップS353の処理の完了後、アラーム記録タスクは停止する。

#### 【0119】

ステップS341の画像記録処理は図31に示すサブルーチンに従い、ステップS347の画像記録処理は図32に示すサブルーチンに従う。

#### 【0120】

ただし、図31に示すサブルーチンは、ステップS313bで作成される待ち時間情報が変数PRECNT+1に相当する点、ステップS315bでフィールドデータをプリアラームデータ領域52hに記録する点、ステップS323bでタグデータをプリアラームタグ領域52gに記録する点、およびステップS325bで変数PRECNTをリセットする点を除き、図29に示すサブルーチンと同様である。図32に示すサブルーチンは、ステップS313cで作成される待ち時間情報が変数POSTCNT+1に相当する点、ステップS315cでフィールドデータをポストアラームデータ領域52jに記録する点、ステップS323cでタグデータをプリアラームタグ領域52iに記録する点、およびステップS325cで変数POSTCNTをリセットする点を除き、図29に示すサブ

ーチンと同様である。したがって、図 3 1 および図 3 2 に示すサブルーチンの処理については説明を省略する。

#### 【0121】

図 3 3 を参照して、再生タスクでは、まずステップ S 3 6 1 でハードディスク 5 2 に形成された所望のタグ領域（ノーマルタグ領域 5 2 c，プリアラームタグ領域 5 2 g およびポストアラームタグ領域 5 2 i のいずれか 1 つ）からのタグデータの一括読み出しを HDD 5 0 に要求する。タグデータは HDD 5 2 によって所望の領域から一括して読み出され、SDRAM 5 6 に転送される。タグデータは、図 1 3（B）に示すタグデータ領域 5 6 f に格納される。なお、タグデータ領域 5 6 f に格納された任意のフィールドのタグデータが、再生ポイントによって指向される。

#### 【0122】

ステップ S 3 6 3 では垂直同期信号 V s y n c 2 の発生の有無を判断し、YES と判断されたときにステップ S 3 6 5 に進む。このため、ステップ S 3 6 5 以降の処理は 1 / 3 0 秒毎に実行される。ステップ S 3 6 5 では再生ポイントが指向するタグデータから現フィールドの J P E G データの先頭アドレスを抽出し、ステップ S 3 6 7 では抽出された先頭アドレス以降の J P E G データの再生を HDD 5 0 に要求する。J P E G データは HDD 5 0 によって読み出され、SDRAM 5 6 の圧縮画像領域 5 6 e（図 1 3（B）参照）に格納される。

#### 【0123】

ステップ S 3 6 9 では、圧縮画像領域 5 6 e に格納された J P E G データの伸長処理を J P E G コーデック 4 6 に命令する。J P E G コーデック 4 6 は、J P E G データを圧縮画像領域 5 6 e から読み出し、読み出された J P E G データに J P E G 伸長を施し、伸長された撮影画像データを図 1 3（B）に示す出力画像領域 5 6 d に書き込む。当該撮影画像データは、その後ビデオデコーダ 3 8 で撮影画像信号に変換され、マルチプレクサ 1 4 を介してモニタ 2 2 に出力される。この結果、再生画像がモニタ画面に表示される。

#### 【0124】

ステップ S 3 7 1 では、変数 D R C T \_ F L A G を判別する。D R C T \_ F L

AG = 1 であれば、現時点の再生方向は順方向であるとみなし、ステップ S 3 7 7 で再生ポインタをインクリメントする。再生ポインタは、次フィールドのタグデータを指向する。ステップ S 3 7 9 ではインクリメントされた再生ポインタが指向するタグデータの次のタグデータ（次フィールドの次のフィールドのタグデータ）を特定し、ステップ S 3 8 1 では特定したタグデータから待ち時間情報を抽出する。

#### 【0125】

一方、ステップ S 3 7 1 で DRCT\_FLAG = 0 と判断されると、現時点の再生方向は逆方向であるとみなし、ステップ S 3 7 3 で再生ポインタをデクリメントする。再生ポインタは、前フィールドのタグデータを指向する。ステップ S 3 7 5 ではデクリメントされた再生ポインタが指向するタグデータから待ち時間情報を抽出する。

#### 【0126】

ステップ S 3 8 3 では抽出された待ち時間情報が示す待ち時間が経過したかどうか判断し、YES であればステップ S 3 6 5 に戻る。この結果、撮影画像データは、記録時と同じ速度（通常速度）で順方向または逆方向に再生される。ステップ S 3 8 3 で NO と判断されたときは、変数 PLAYEND\_FLAG が “1” を示すかどうかをステップ S 3 8 5 で判断する。PLAYEND\_FLAG が “1” であれば、再生終了が要求されているとみなし、ステップ S 3 8 7 で変数 PLAY\_FLAG および PLAYEND\_FLAG を “0” に設定する。再生タスクは、ステップ S 3 8 7 の処理が完了した後に停止する。

#### 【0127】

以上の説明から分かるように、マルチプレクサ 1 4 に含まれるカメラ切換回路 2 2 a または 2 2 b は、複数の監視カメラ C 1 ~ C 1 6 のいずれかを時分割で選択する。画像処理回路 2 4 a または 2 4 b は、選択された監視カメラから出力された撮影画像信号を取り込み、記録ビットが “1” の VBI 情報を記録モード設定に従うタイミングで当該撮影画像信号に付加する。HDR 1 6 は、VBI 情報に含まれる記録ビットが “1” のとき、当該画像信号をハードディスク 5 2 に記録する。したがって、所望の撮影画像信号のみをハードディスク 5 2 に的確に記

録することができる。

【0128】

なお、この実施例では、マルチプレクサとHDRとが一体となっているが、マルチプレクサおよびHDRは別体としてもよい。また、この実施例のビデオレコーダにHDRのみを有する別のビデオレコーダをカスケード接続するようにすれば、ハードディスクの容量を超えるデータを記録することができる。このように別のビデオレコーダを増設するような場合に、この発明のような記録制御の効果が顕著に表れる。

【0129】

また、この実施例では、記録媒体としてハードディスクを用いているが、ランダムアクセス性に優れる限り、ディスク記録媒体に限られない。このため、半導体メモリを記録媒体として用いてもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】

この発明の一実施例を示すブロック図である。

【図2】

マルチプレクサの構成の一例を示すブロック図である。

【図3】

マルチプレクサの動作の一部を示す図解図である。

【図4】

記録モード設定の一例を示す図解図である。

【図5】

プログラム記録設定の一例を示す図解図である。

【図6】

図4および図5に示す設定に従うマルチプレクサの動作の一部を示す図解図である。

【図7】

記録モード設定の他の一例を示す図解図である。

【図8】

プログラム記録設定の他の一例を示す図解図である。

【図 9】

プログラム記録設定のその他の一例を示す図解図である。

【図 10】

図 7～図 9 に示す設定に従うマルチプレクサの動作の一部を示す図解図である。

【図 11】

図 4 または図 7 の設定に従うマルチプレクサの動作の一部を示す図解図である。

【図 12】

HDR の構成の一例を示すブロック図である。

【図 13】

(A) は SDRAM に形成された記録処理用の領域のマッピング状態を示す図解図であり、(B) は SDRAM に形成された再生処理用の領域のマッピング状態を示す図解図である。

【図 14】

ハードディスクの構造の一例を示す図解図である。

【図 15】

(A) はハードディスクに記録されるフィールドデータの構造の一例を示す図解図であり、(B) はハードディスクに記録されるタグデータの構造の一例を示す図解図である。

【図 16】

マルチプレクサの動作の一部を示すフロー図である。

【図 17】

マルチプレクサの動作の他の一部を示すフロー図である。

【図 18】

マルチプレクサの動作のその他の一部を示すフロー図である。

【図 19】

HDR の動作の一部を示すフロー図である。

**【図 2 0】**

H D R の動作の他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 1】**

H D R の動作のその他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 2】**

H D R の動作のさらにその他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 3】**

H D R の動作の他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 4】**

H D R の動作のその他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 5】**

H D R の動作のさらにその他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 6】**

H D R の動作の他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 7】**

H D R の動作のその他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 8】**

H D R の動作のさらにその他の一部を示すフロー図である。

**【図 2 9】**

H D R の動作の他の一部を示すフロー図である。

**【図 3 0】**

H D R の動作のその他の一部を示すフロー図である。

**【図 3 1】**

H D R の動作のさらにその他の一部を示すフロー図である。

**【図 3 2】**

H D R の動作の他の一部を示すフロー図である。

**【図 3 3】**

H D R の動作のその他の一部を示すフロー図である。

**【図 3 4】**

H D R の動作のさらにその他の一部を示すフロー図である。

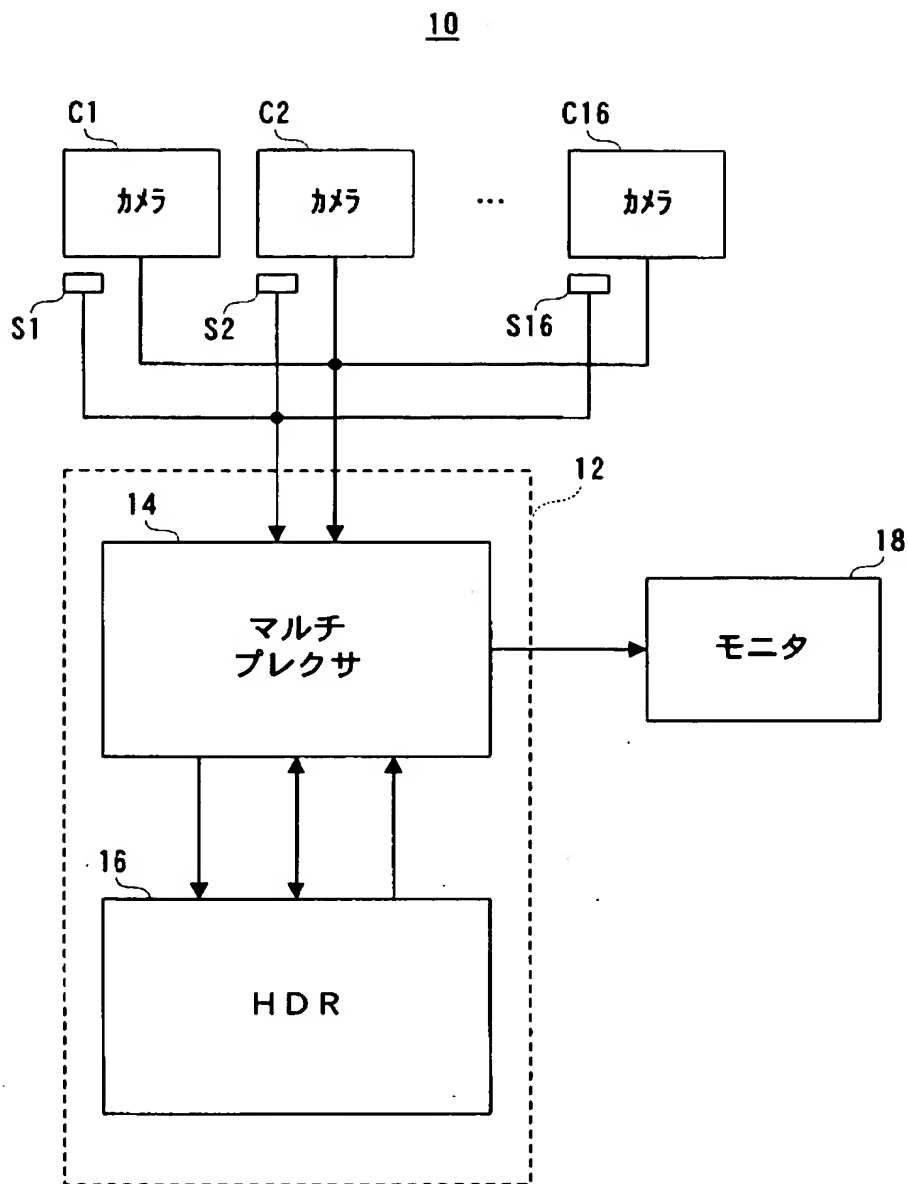
【符号の説明】

- 1 0 … 監視カメラシステム
- 1 2 … ビデオレコーダ
- 1 4 … マルチプレクサ
- 1 6 … H D R
- 1 8 … モニタ

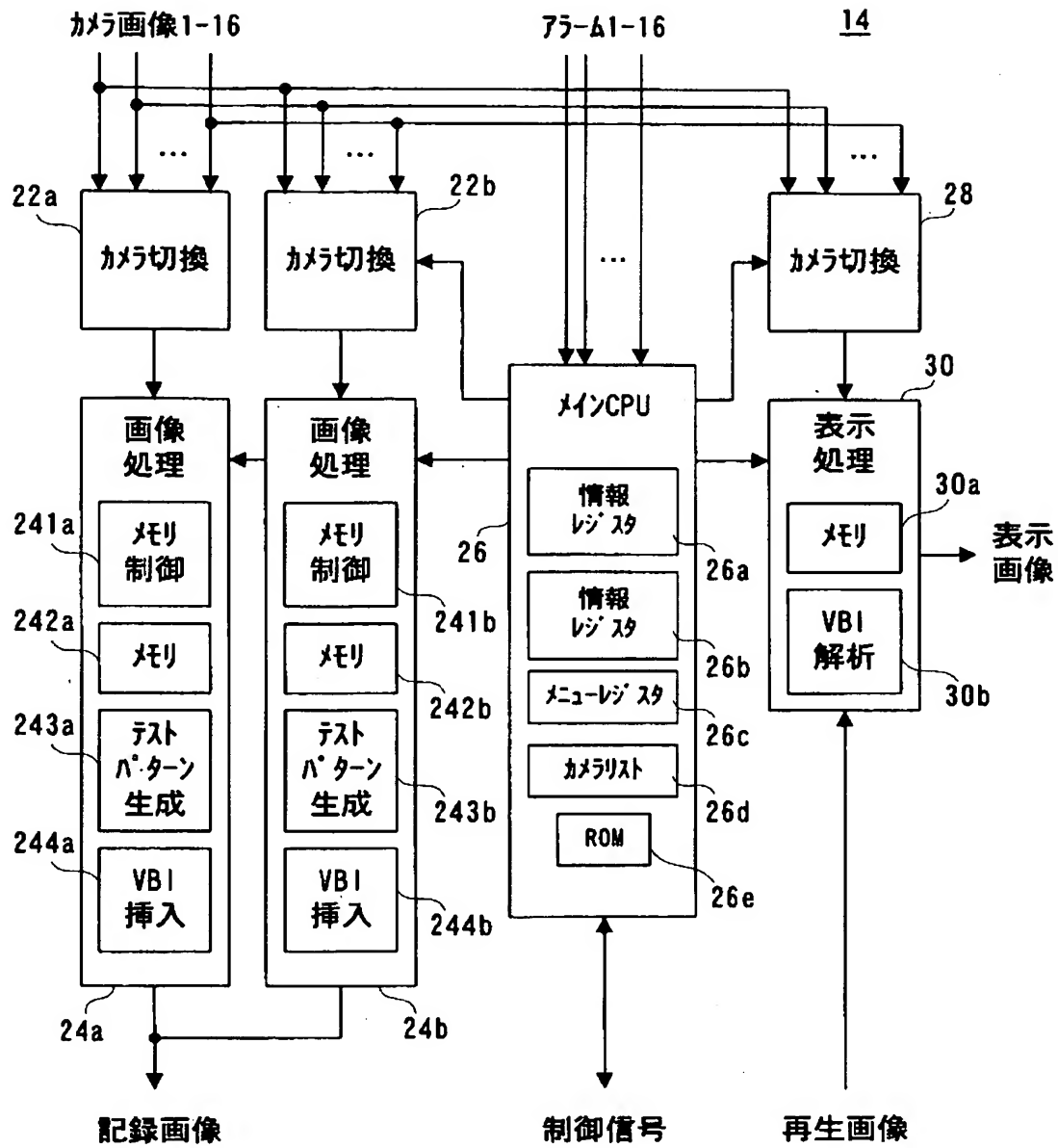


【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【図 3】

	フィールド	1	2	3	4	1
カメラ切換回路22a	動作	カメラ切換				カメラ切換
画像処理回路24a	動作	カメラ画像 or パターン画像 の出力	カメラ画像 の保存	カメラ画像 の保存	パターン画像 の出力	カメラ画像 or パターン画像 の出力
	フィールド	3	4	1	2	3
カメラ切換回路22b	動作	カメラ切換				
画像処理回路24b	動作	カメラ画像 の保存	パターン画像 の出力	カメラ画像 or パターン画像 の出力	カメラ画像 の保存	カメラ画像 の保存
最終出力		カメラ画像 or パターン画像	パターン 画像	カメラ画像 or パターン画像	パターン 画像	カメラ画像 or パターン画像

【図 4】

<記録モード設定>	
ノーマル記録モード	: ON ; P-1
プリアラーム記録モード	: OFF
ポストアラーム記録モード	: 30FPS

【図 5】

<プログラム記録設定>			
P-1			
01:15.0	02:7.5	03:OFF	04:OFF
05:OFF	06:OFF	07:OFF	08:OFF
09:OFF	10:OFF	11:OFF	12:OFF
13:OFF	14:OFF	15:OFF	16:OFF

【図 6】

カメラ切換22a, 画像処理24a	フィルター	1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
	選択カメラ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	出力候補	1/T T 1/T T 1/T T
カメラ切換22b, 画像処理24b	フィルター	3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2
	選択カメラ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	出力候補	T 2/T T 2/T T 2/T
最終出力		1 T 2 T 1 T T T 1 T 2 T
VBI	記録	1 0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 0
	プリフレーム	0 * 0 * 0 * * * 0 * 0 *
	ポストフレーム	0 * 0 * 0 * * * 0 * 0 *
	ID	1 * 2 * 1 * * * 1 * 2 *

1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1/T				T	1/T			T	1/T			T	1/T		T
3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
				T	2/T			T	2/T			T	2/T		T
1	T	T	T	1	T	2	T	1	T	T	T	1	T	2	T
1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0
0	*	*	*	0	*	0	*	0	*	*	*	0	*	0	*
0	*	*	*	0	*	0	*	0	*	*	*	0	*	0	*
1	*	*	*	1	*	2	*	1	*	*	*	1	*	2	*

T:テストパターン画像

【図 7】

<記録モード設定>	
ノーマル記録モード	: ON ; P-1
プリアラーム記録モード	: ON ; P-2
ホストアラーム記録モード	: 30FPS

【図 8】

<プログラム記録設定>			
P-2			
01:7.5	02:3.75	03:OFF	04:OFF
05:OFF	06:OFF	07:OFF	08:OFF
09:OFF	10:OFF	11:OFF	12:OFF
13:OFF	14:OFF	15:OFF	16:OFF

【図 9】

<プログラム記録設定>			
P-3			
01:OFF	02:OFF	03:7.5	04:2.5
05:OFF	06:OFF	07:OFF	08:OFF
09:OFF	10:OFF	11:OFF	12:OFF
13:OFF	14:OFF	15:OFF	16:OFF

【図 10】

カメラ切換22a, 画像処理24a	フィルタ	1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
	選択カメラ	1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1
	出力候補	2/T T 1/T T 2/T T
カメラ切換22b, 画像処理24b	フィルタ	3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2
	選択カメラ	4 4 3 3 3 3 4 4 4 4 3 3
	出力候補	T 4/T T 3/T T 4/T
最終出力		2 T 4 T 1 T 3 T T T T T
VBI	記録	1 0 1 0 1 0 1 0 0 0 0 0
	プリフレーム	0 * 1 * 0 * 1 * * * * *
	ポストフレーム	0 * 0 * 0 * 0 * * * * *
	ID	2 * 4 * 1 * 3 * * * * *

1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1
1/T T 2/T T 1/T T 2/T T
3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2
3 3 4 4 4 4 3 3 3 3 4 4 4 4 3 3
T 3/T T 4/T T 3/T T 4/T
1 T 3 T 2 T T T 1 T 3 T T T 4 T
1 0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1 0
0 * 1 * 0 * * * 0 * 1 * * * 1 *
0 * 0 * 0 * * * 0 * 0 * * * 0 *
1 * 3 * 2 * * * 1 * 3 * * * 4 *

T:テストパターン画像

【図 11】

カメラ切換22a, 画像処理24a	フィルタ	1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
	選択カメラ	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
	出力候補	5/T T 5/T T 5/T T
カメラ切換22b, 画像処理24b	フィルタ	3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2
	選択カメラ	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
	出力候補	T 5/T T 5/T T 5/T
最終出力		5 T 5 T 5 T 5 T 5 T 5 T
VBI	記録	1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0
	プリアラーム	0 * 0 * 0 * 0 * 0 * 0 *
	ポストアラーム	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	ID	5 * 5 * 5 * 5 * 5 * 5 *

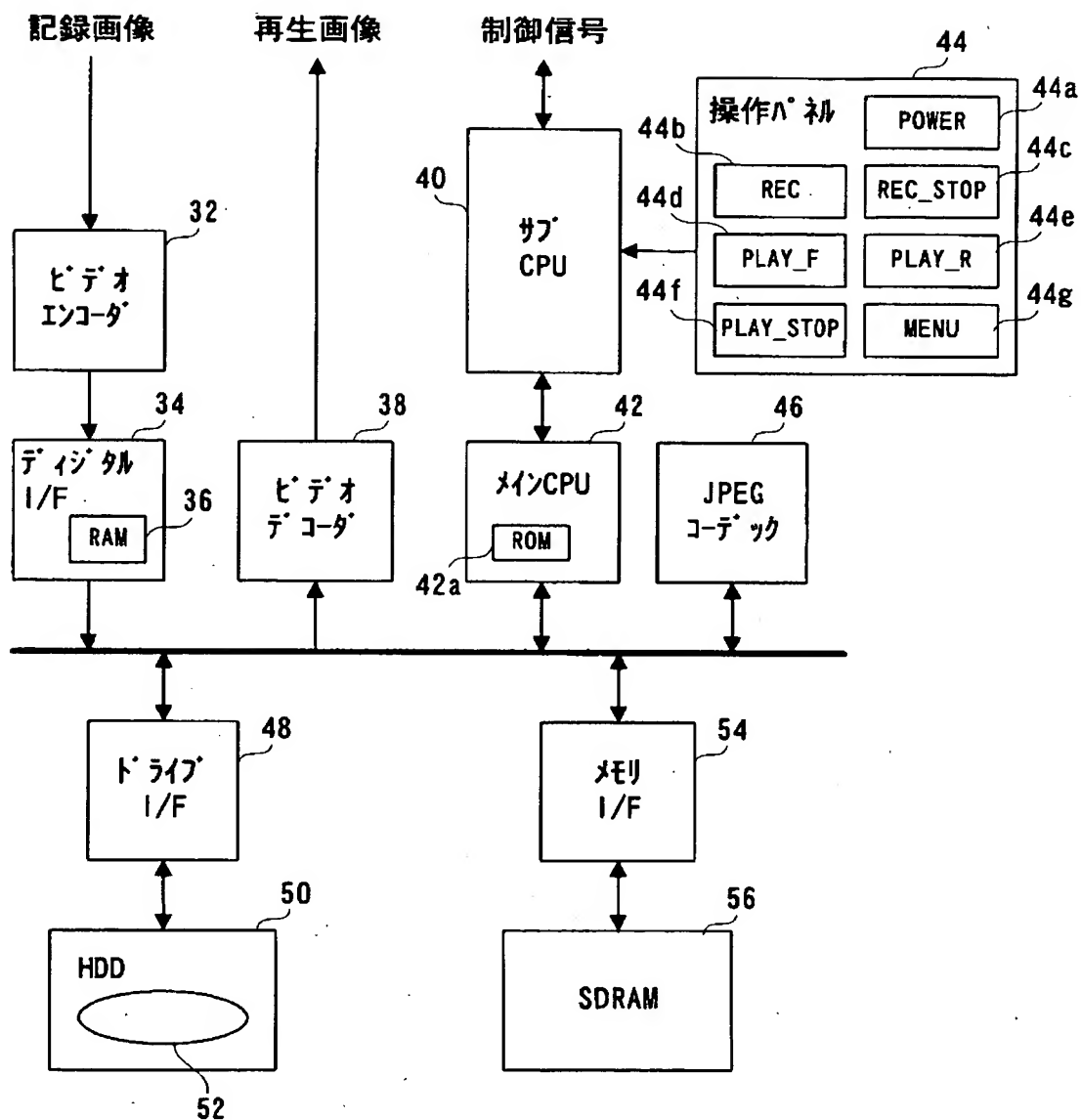
1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
5/T T 5/T T 5/T T 5/T T
3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2
5 5 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
T 5/T T 8/T T 8/T T 8/T
5 T 5 T 5 T 8 T 5 T 8 T 5 T 8 T
1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0
0 * 0 * 0 * 0 * 0 * 0 * 0 * 0 *
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
5 * 5 * 5 * 8 * 5 * 8 * 5 * 8 *

T:テストパターン画像



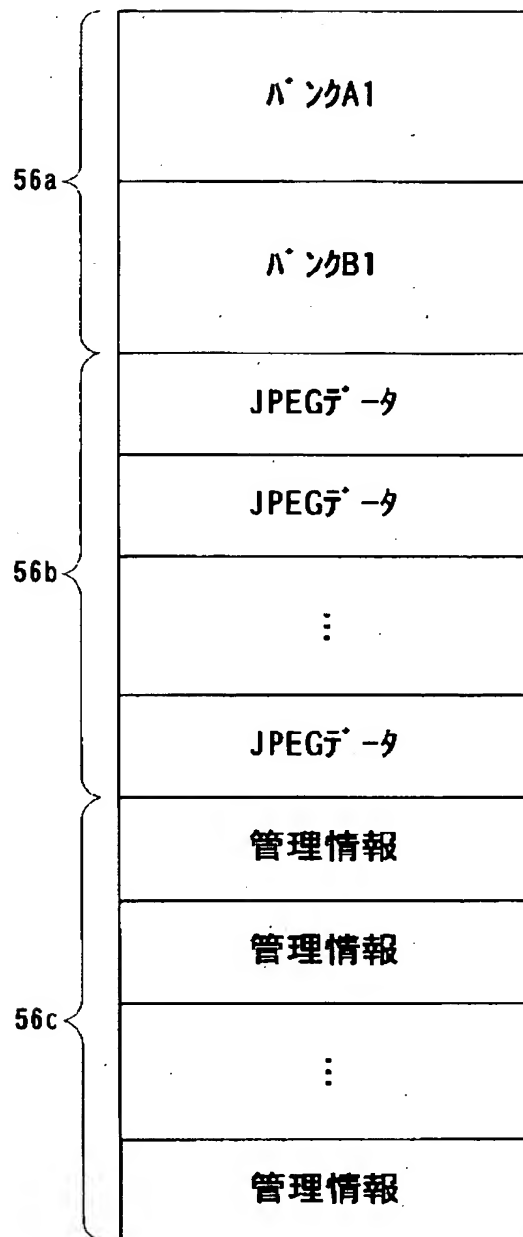
【図 12】

16

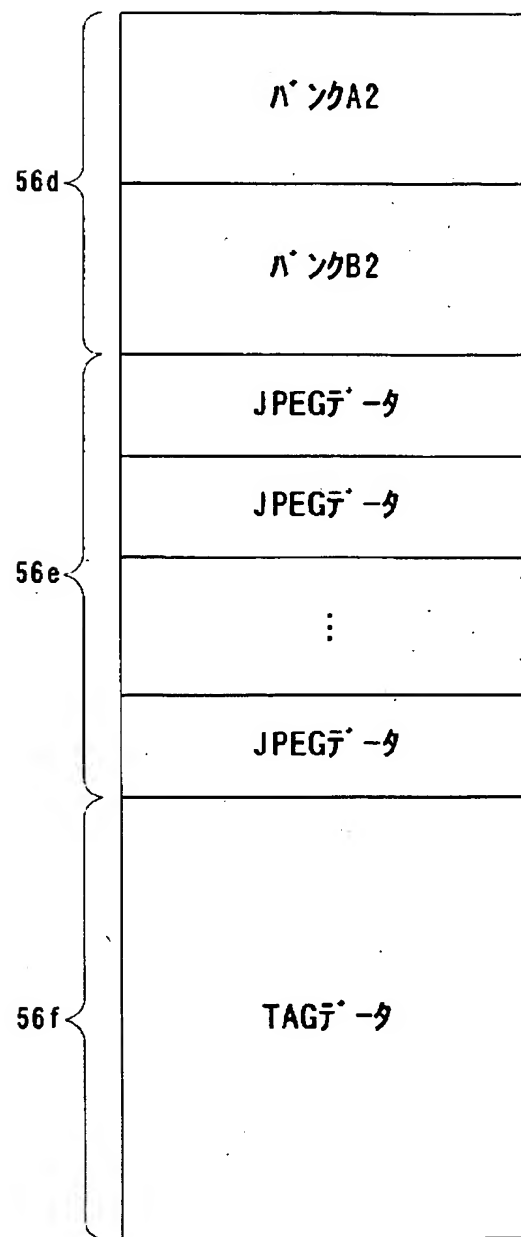


【図 13】

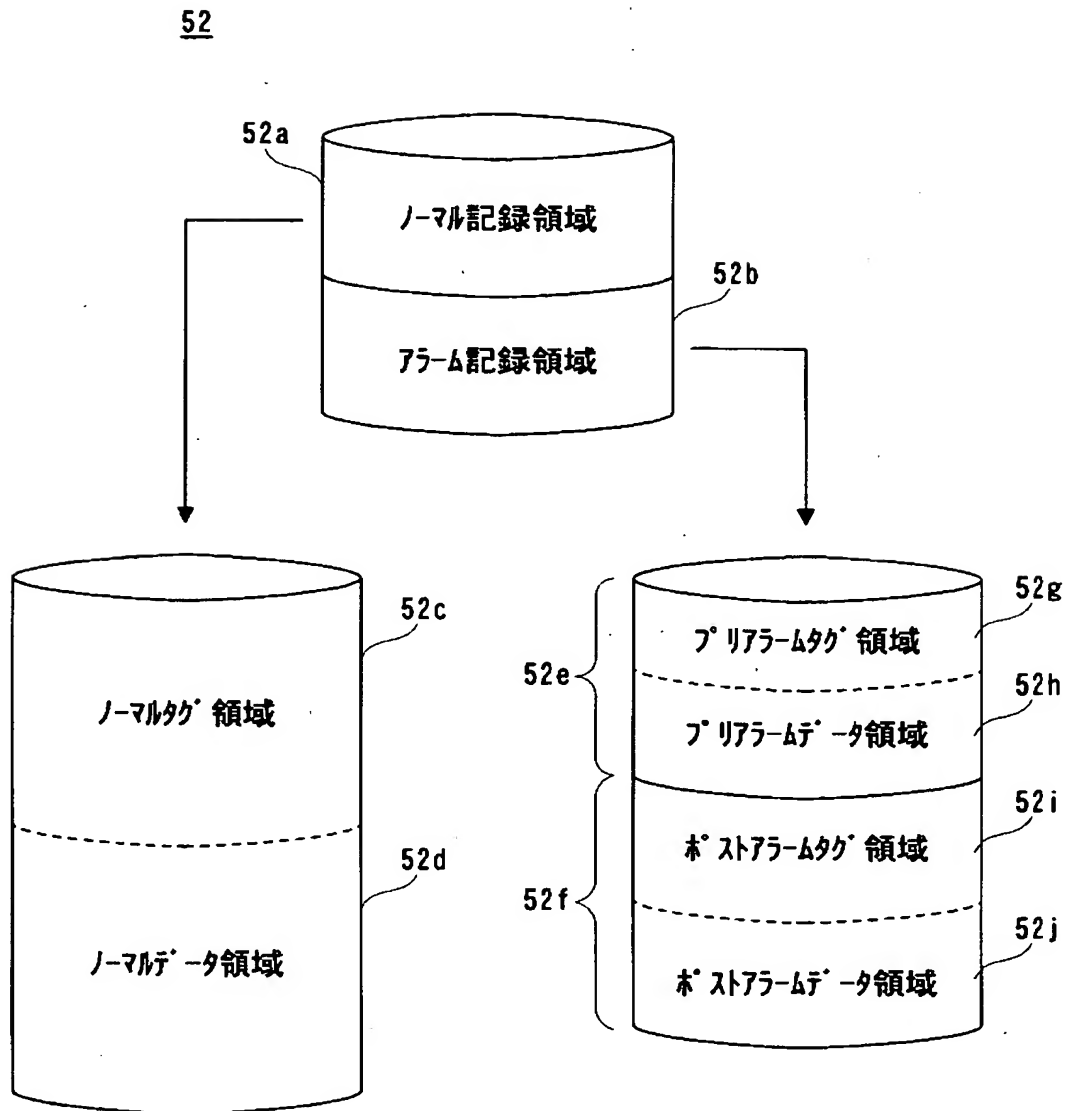
(A) 記録処理用



(B) 再生処理用



【図 14】



【図 15】

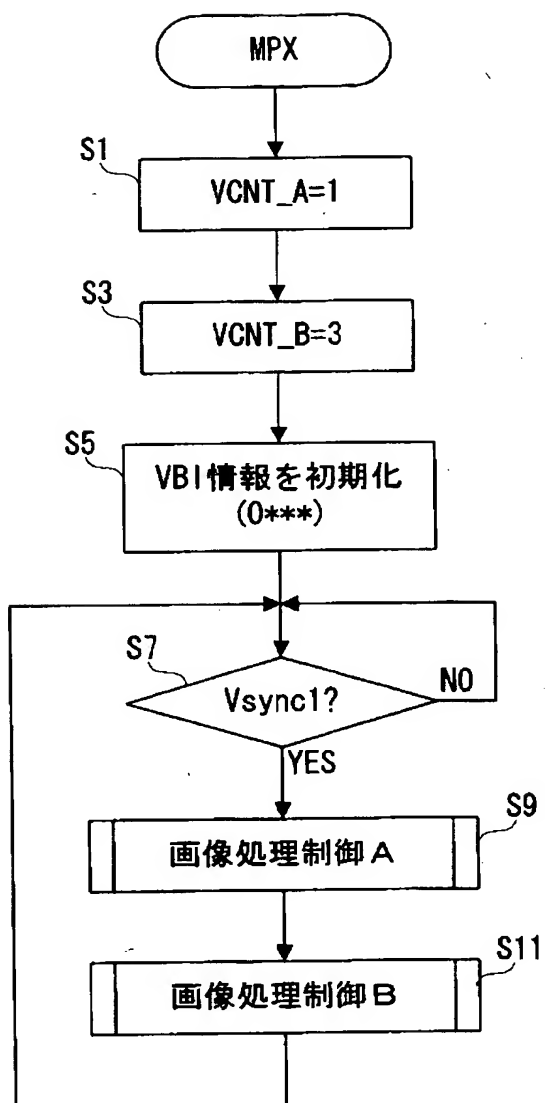
(A) フィールドデータ

<p>管理情報 (日付, JPEGサイズ, フレーム番号, カメラID, 記録フィールド番号, 待ち時間, etc)</p>
<p>JPEG データ</p>

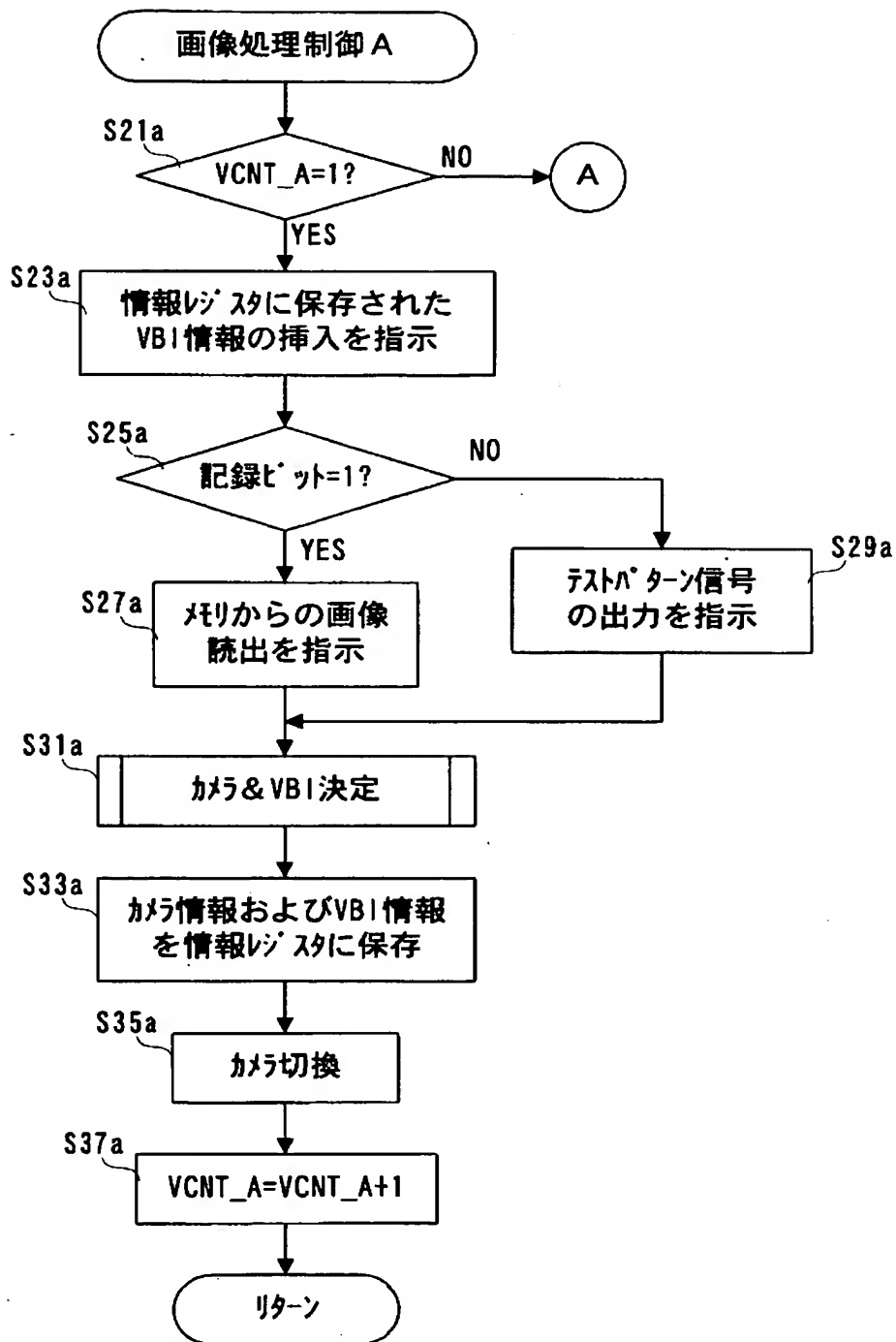
(B) TAGデータ

⋮
管理情報アドレス (前フィールド)
JPEGデータアドレス (前フィールド)
管理情報アドレス (現フィールド)
JPEGデータアドレス (現フィールド)
管理情報アドレス (次フィールド)
JPEGデータアドレス (次フィールド)
⋮
日付
JPEGサイズ
フレーム番号
カメラID
記録フィールド番号
待ち時間情報
⋮

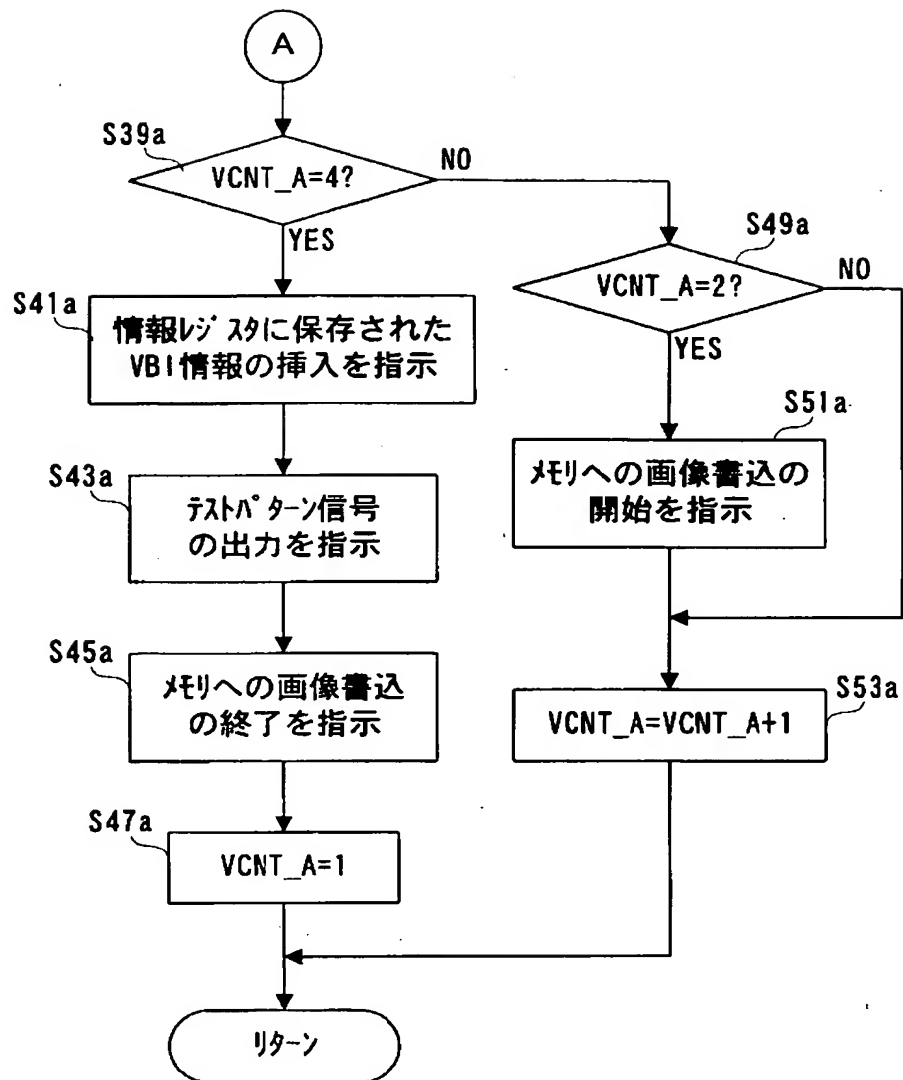
【図 16】



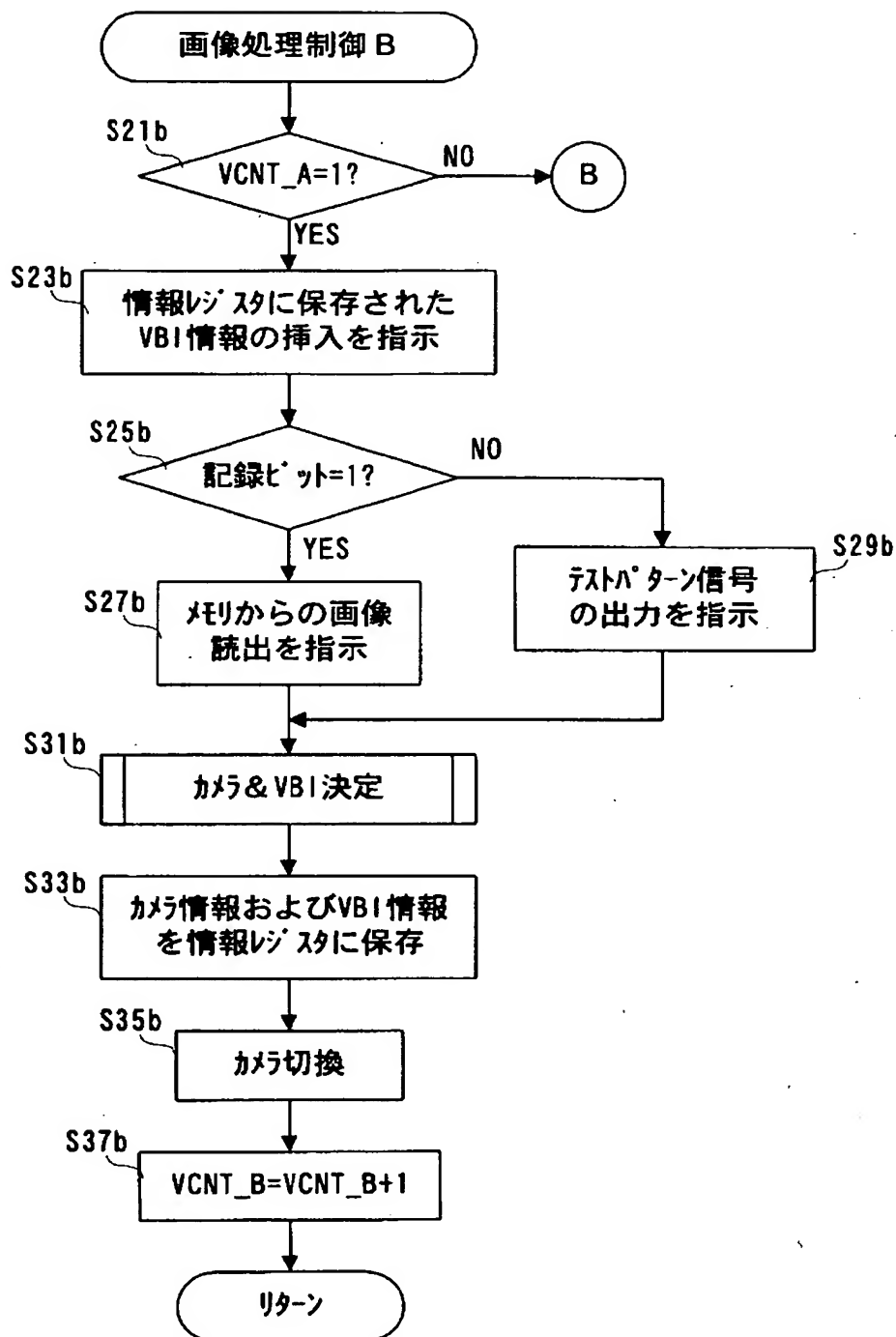
【図 1.7】



【図 18】

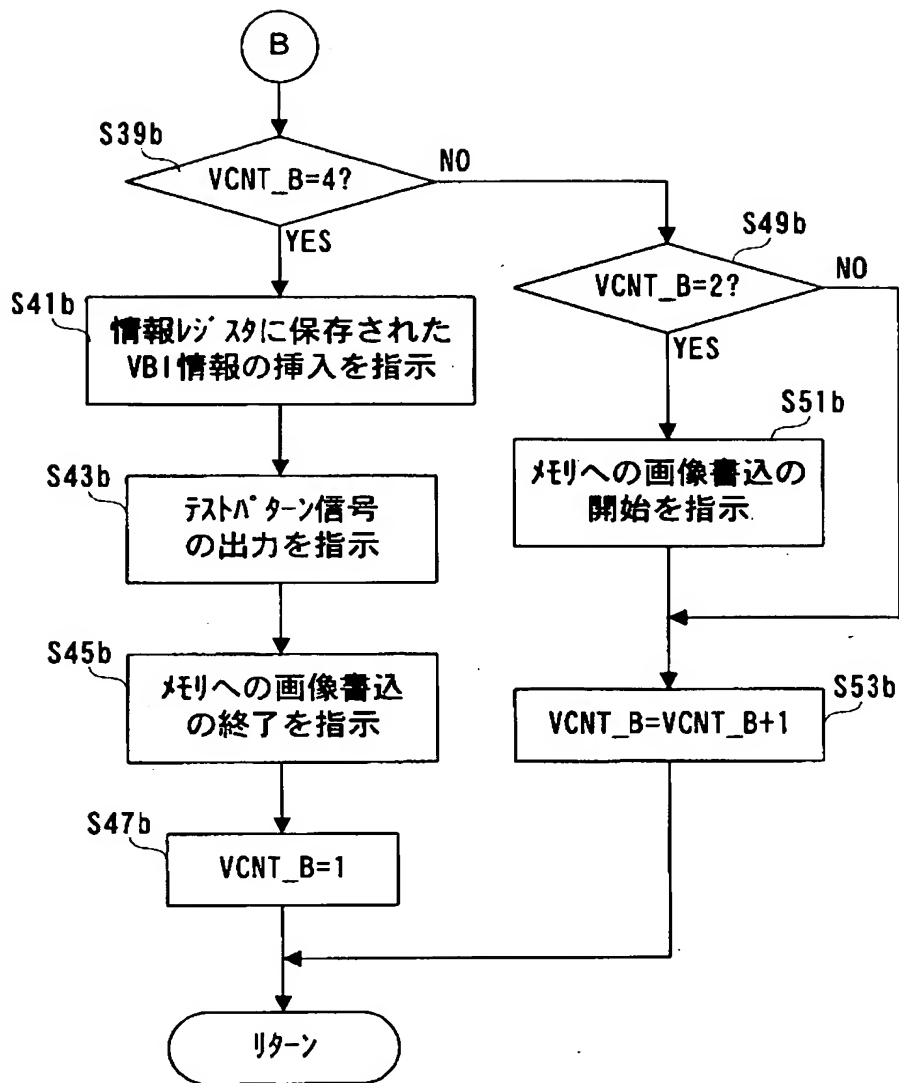


【図 19】

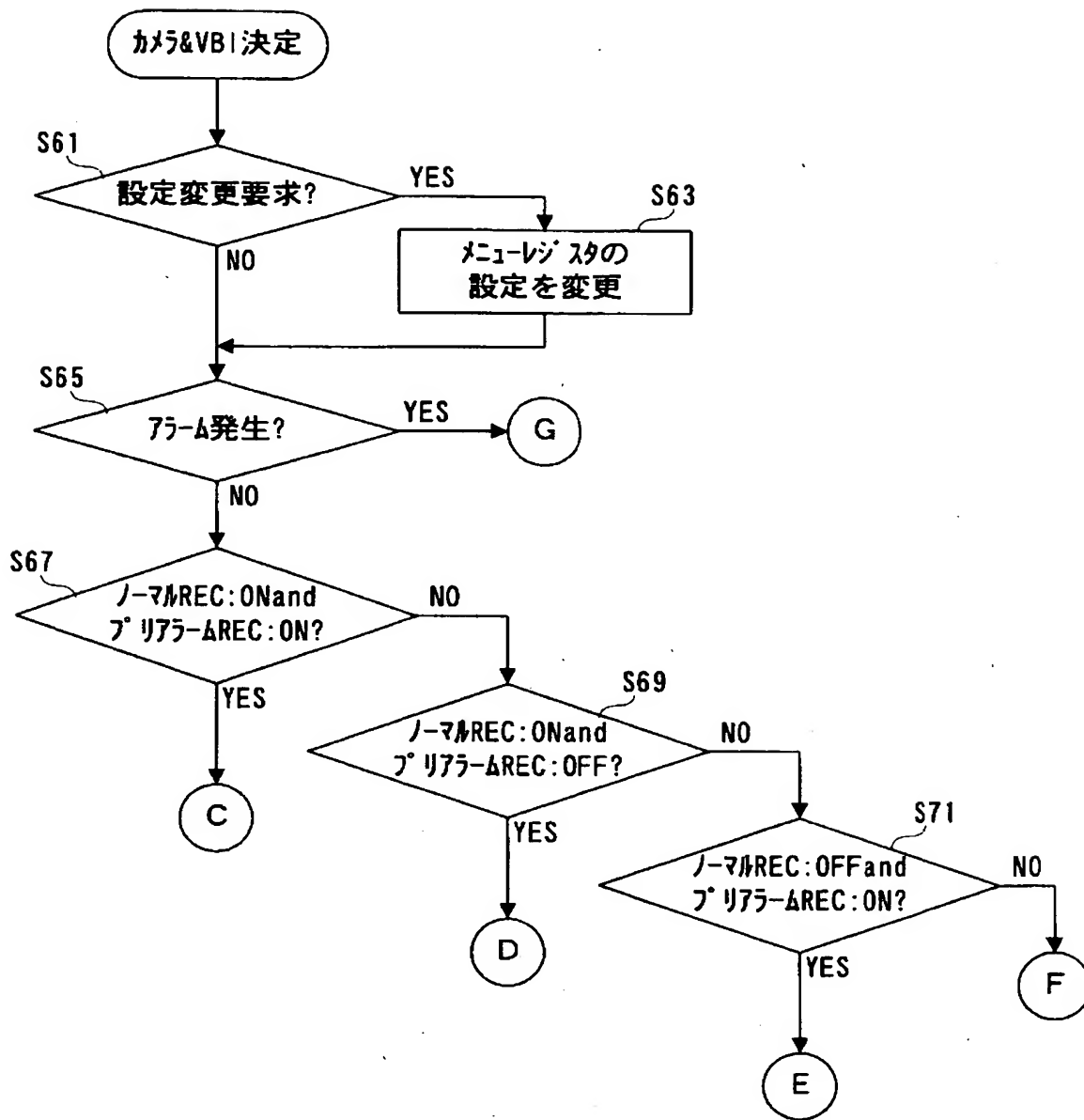




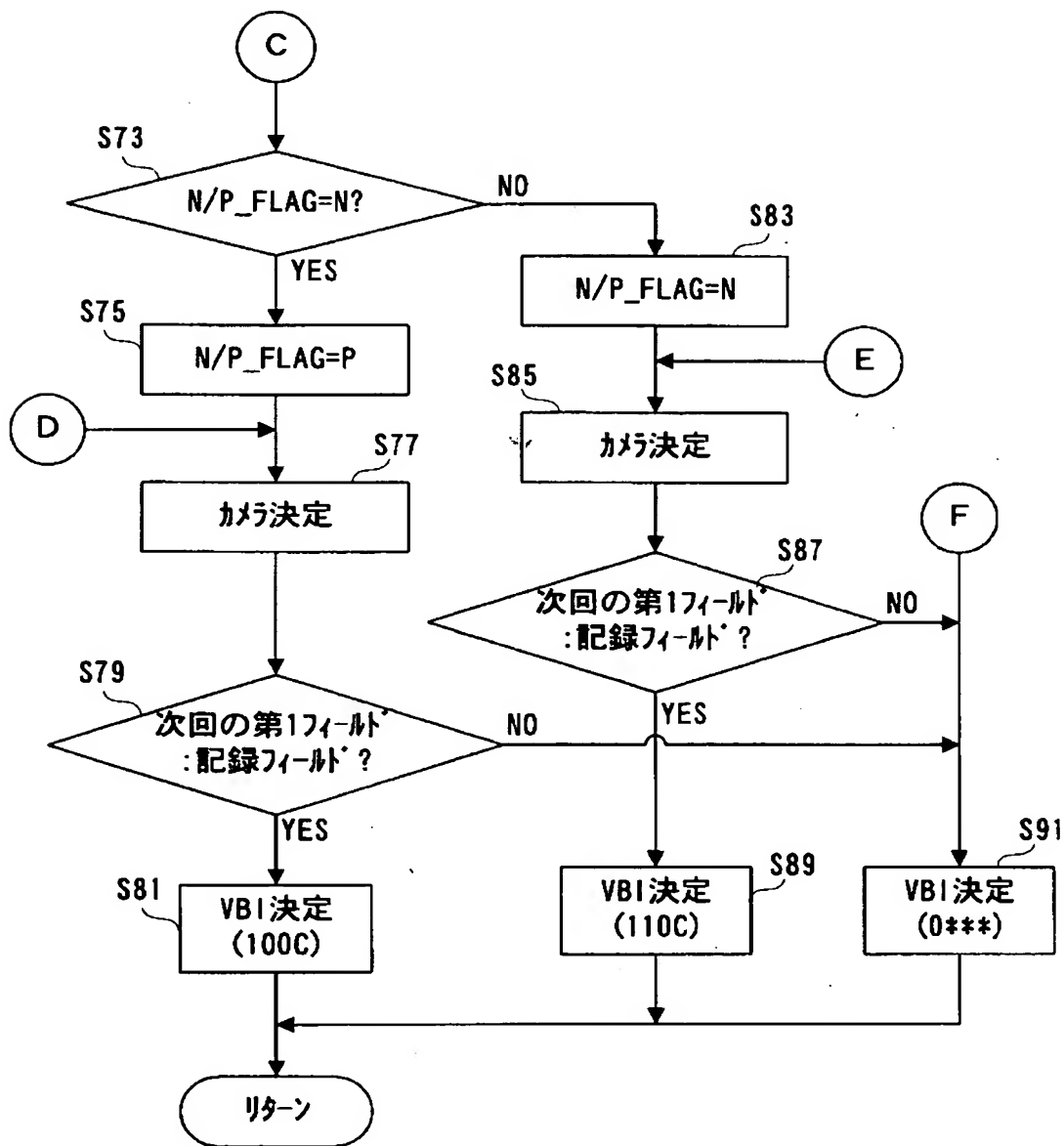
【図 20】



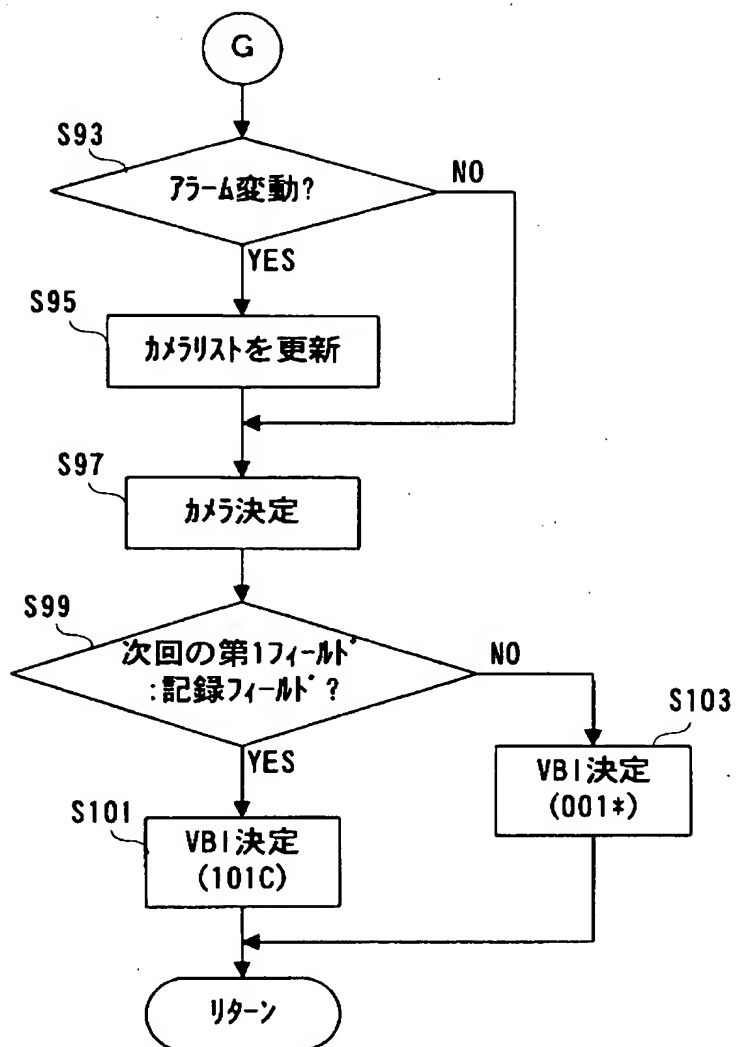
【図 21】



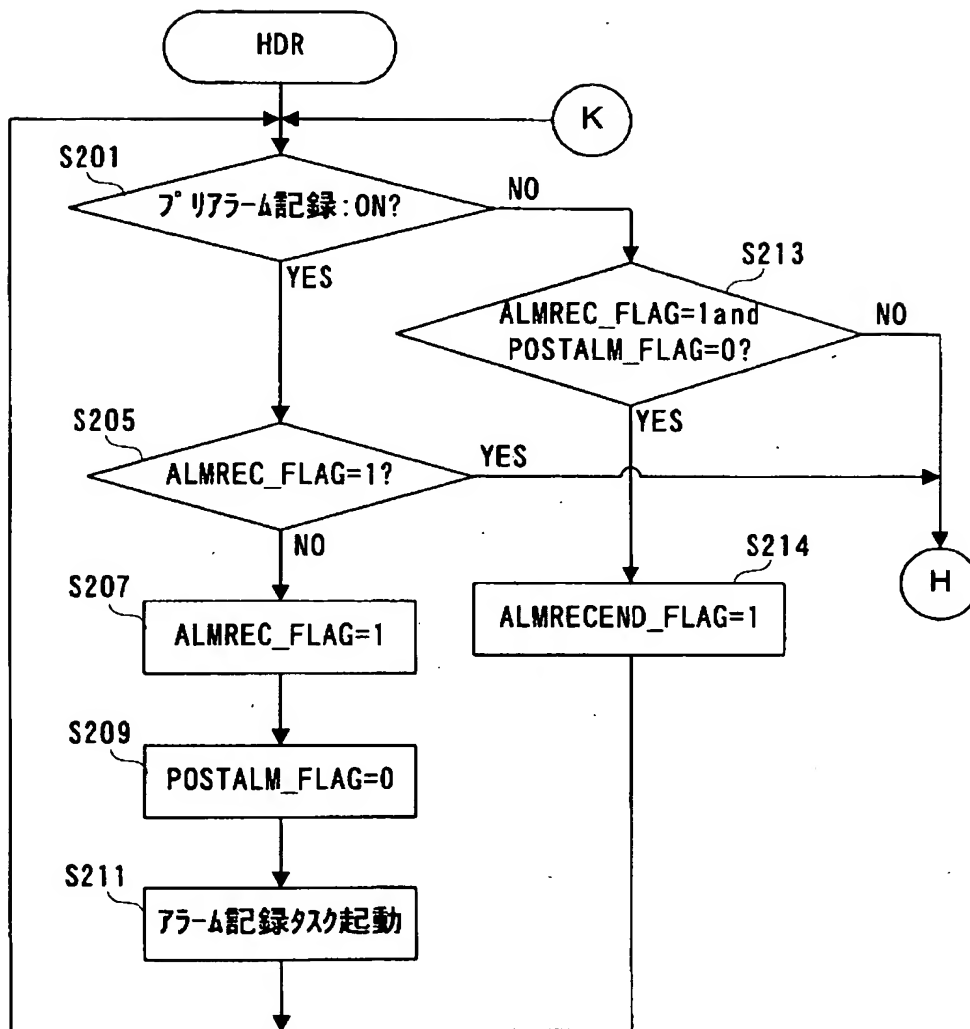
【図 22】



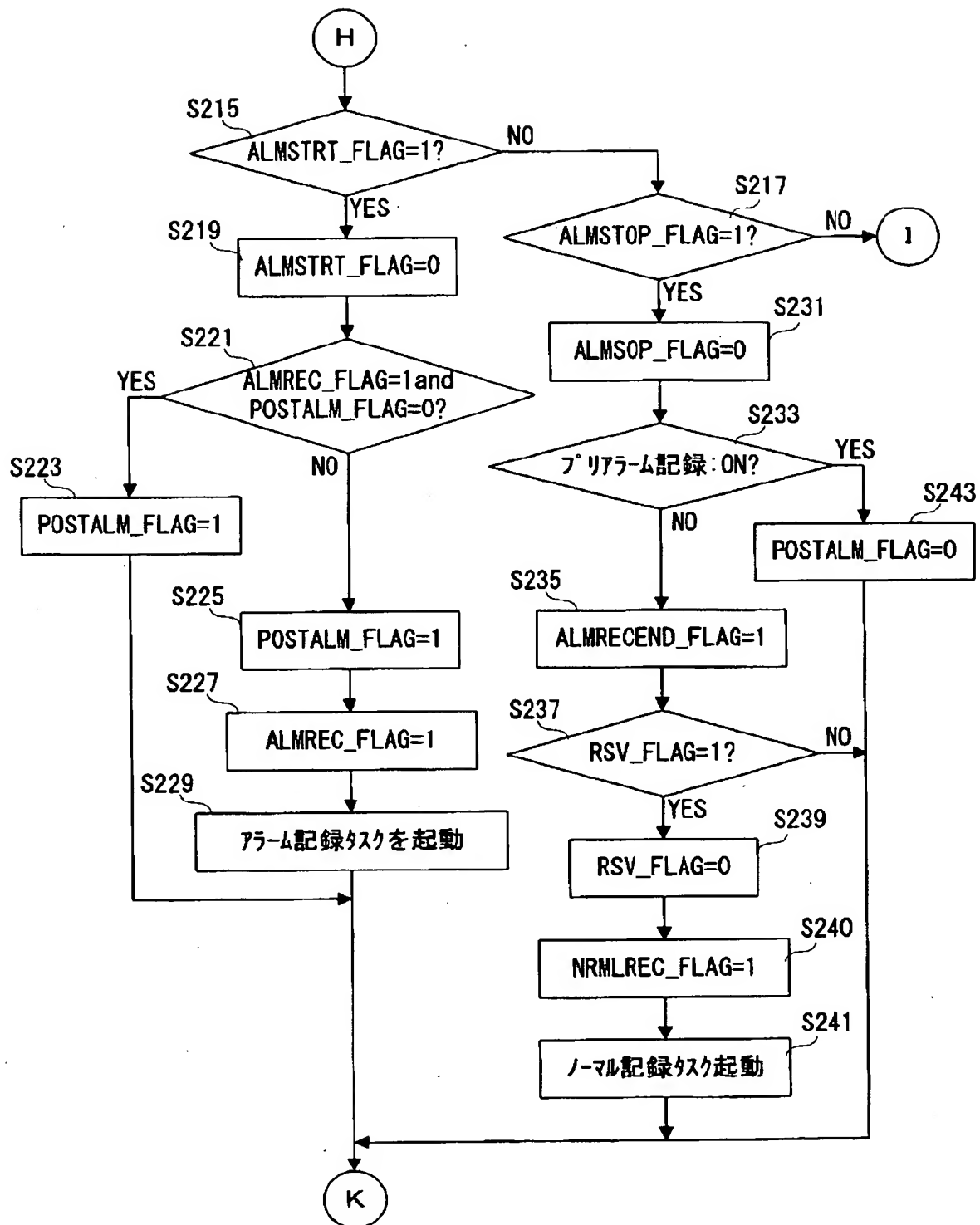
【図 23】



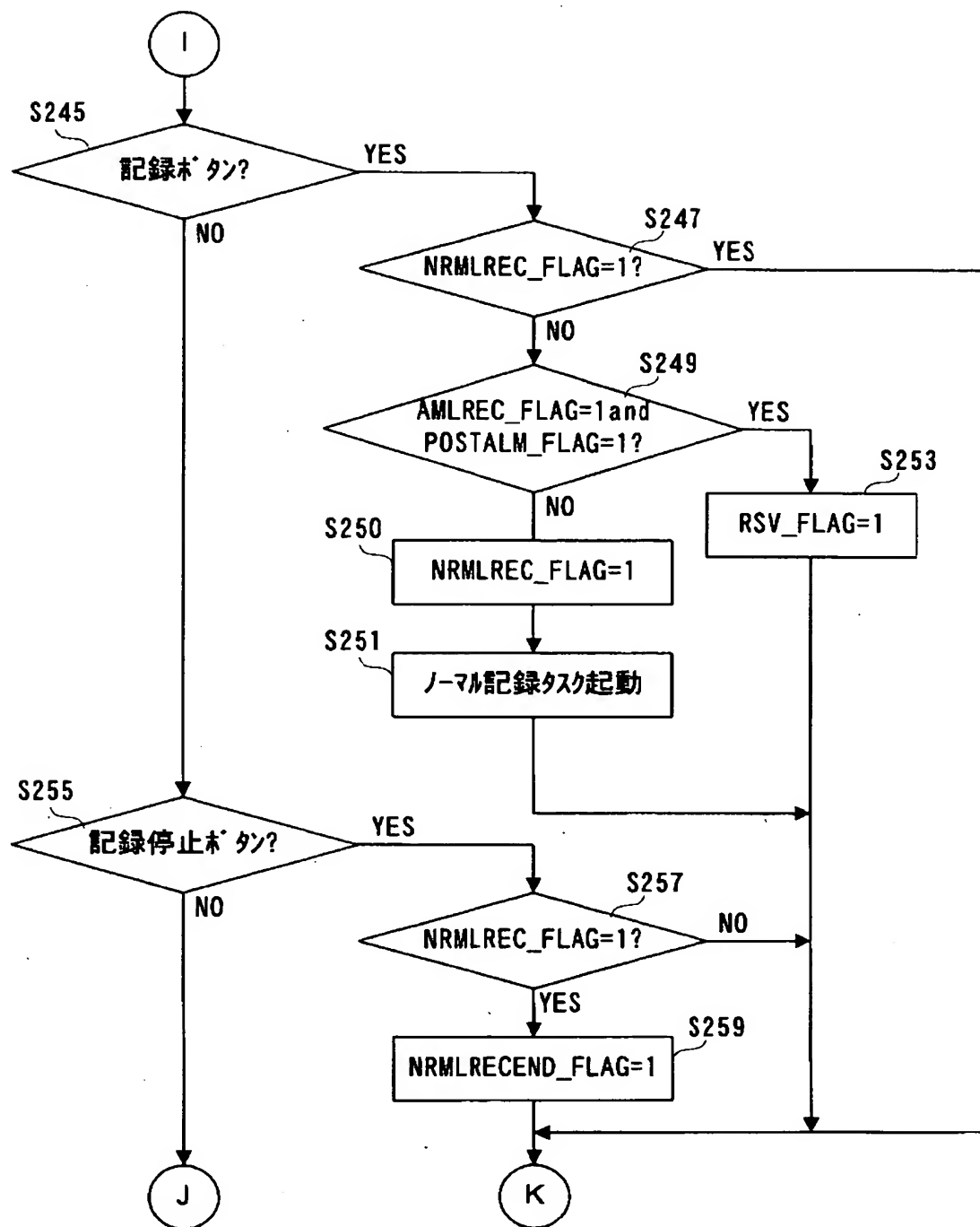
【図 24】



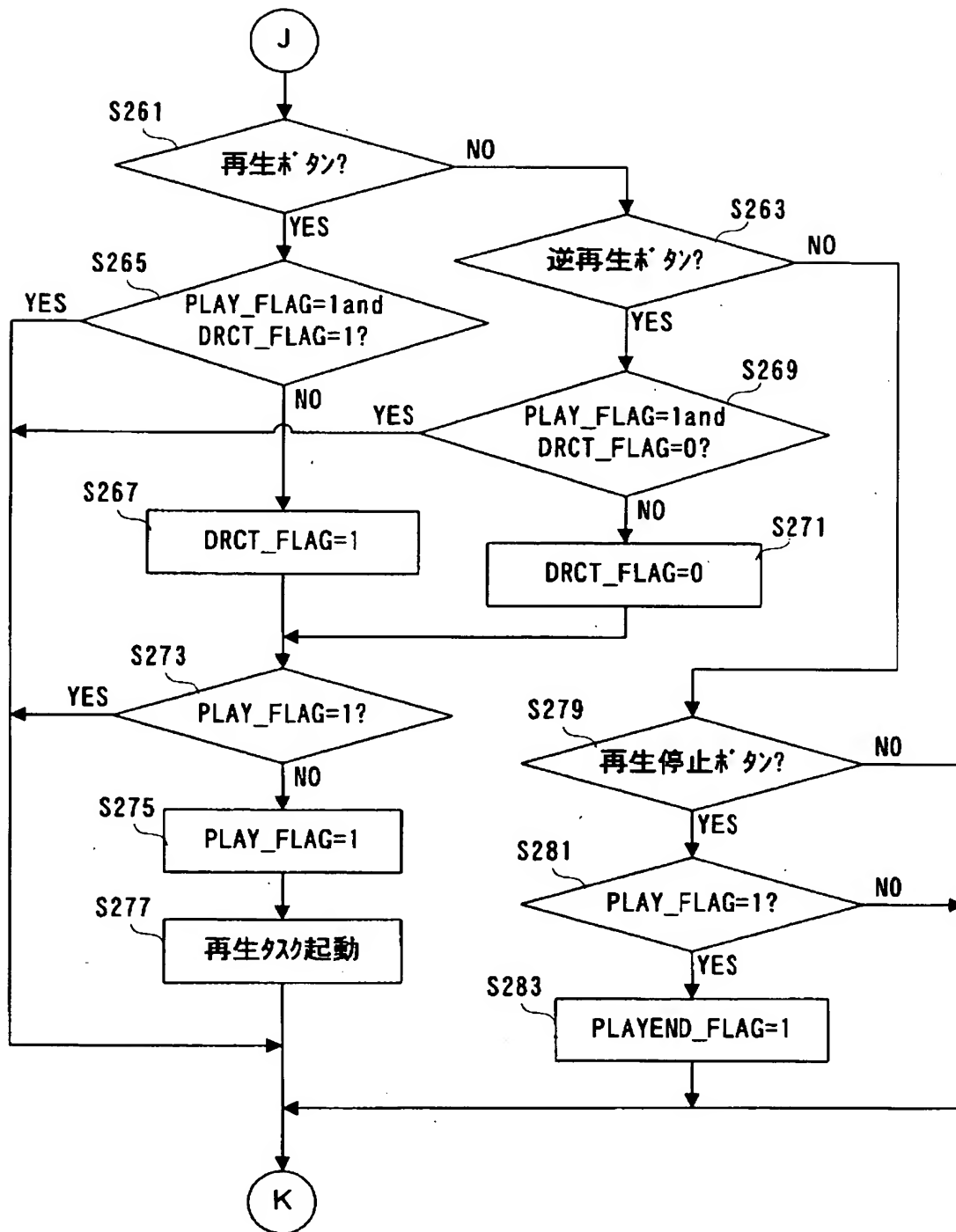
【図 25】



【図 26】

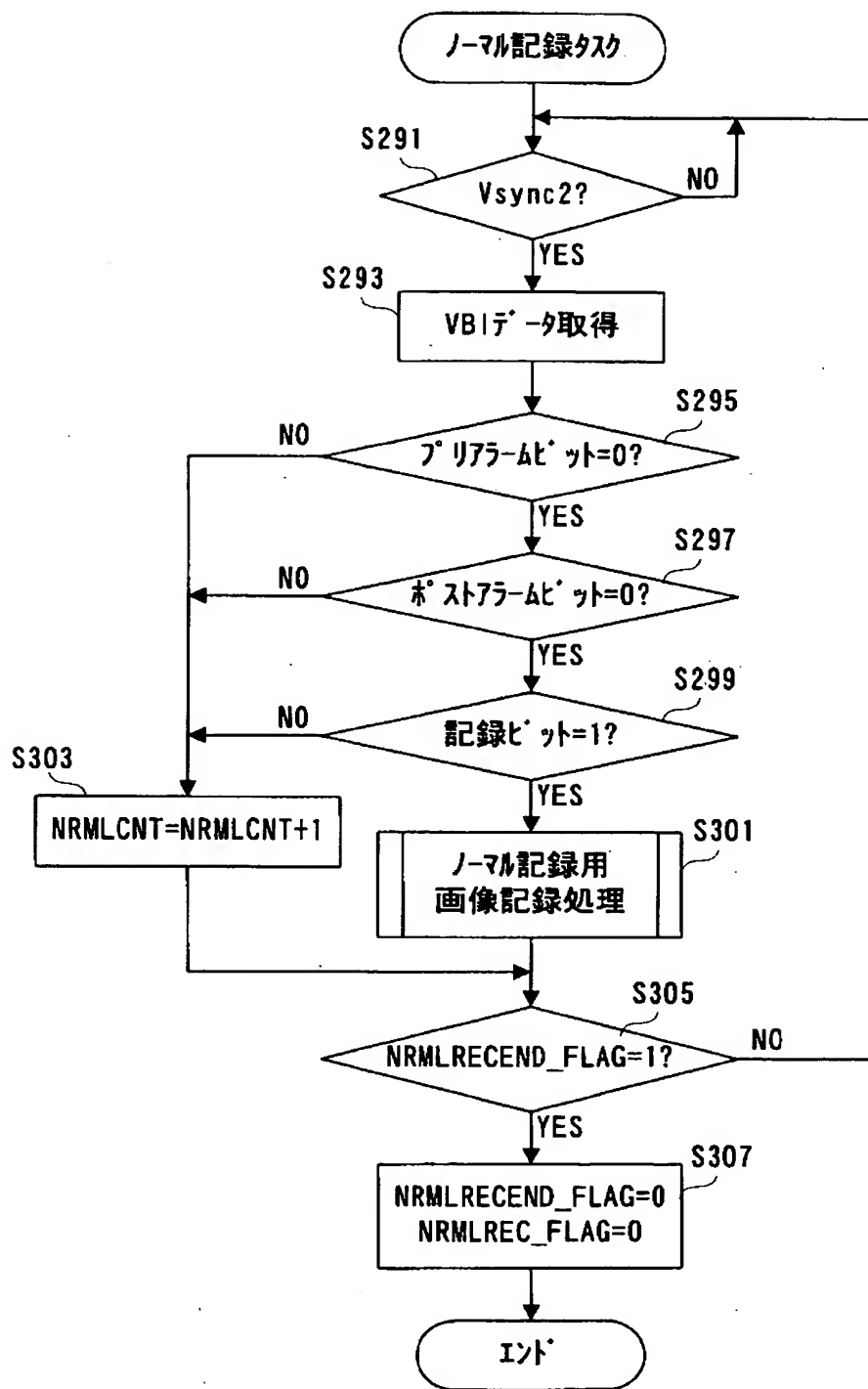


【図 27】

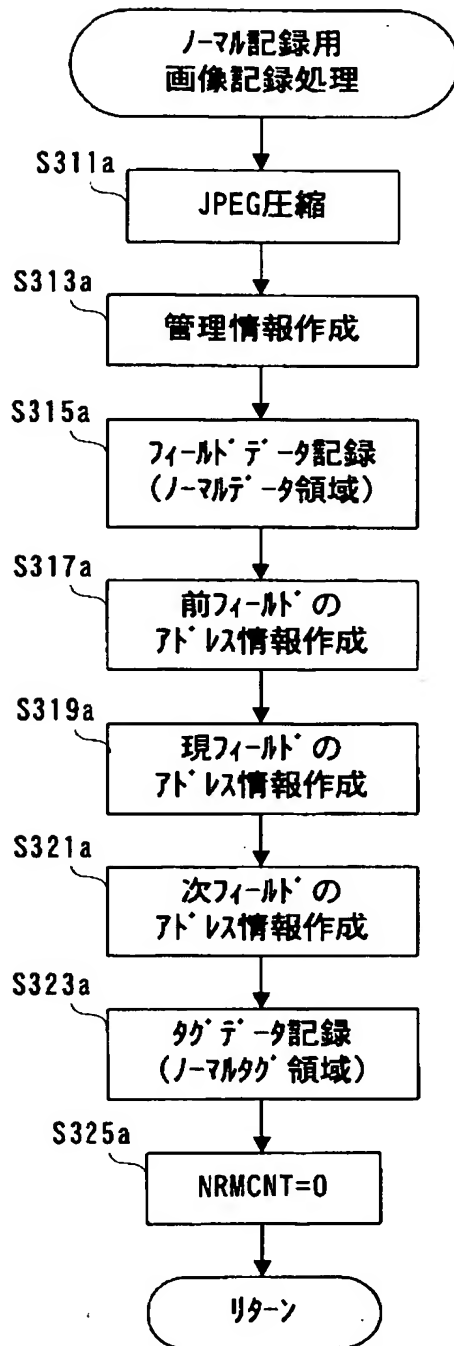




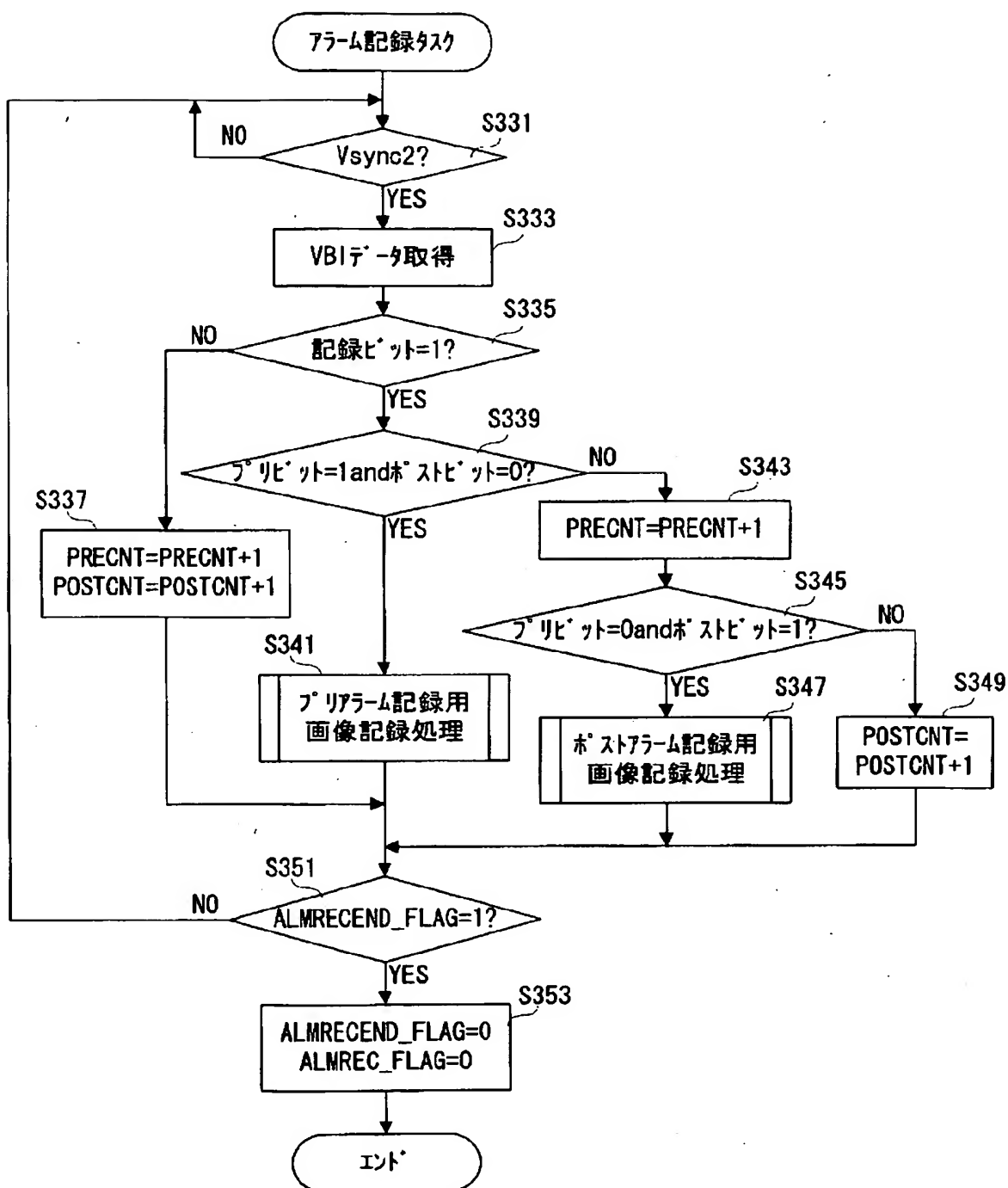
【図 28】



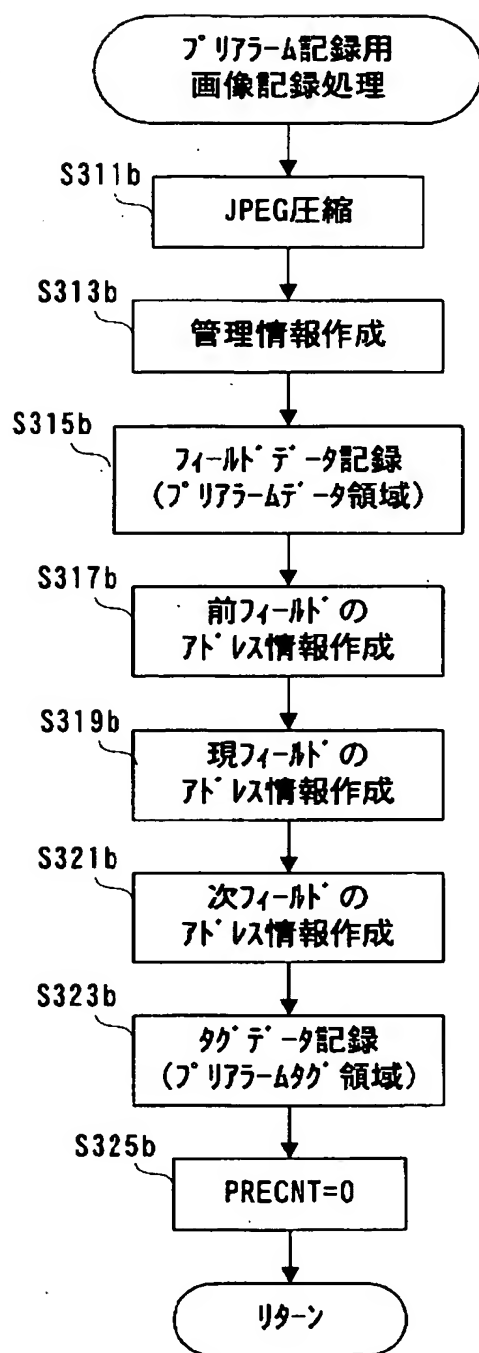
【図 29】



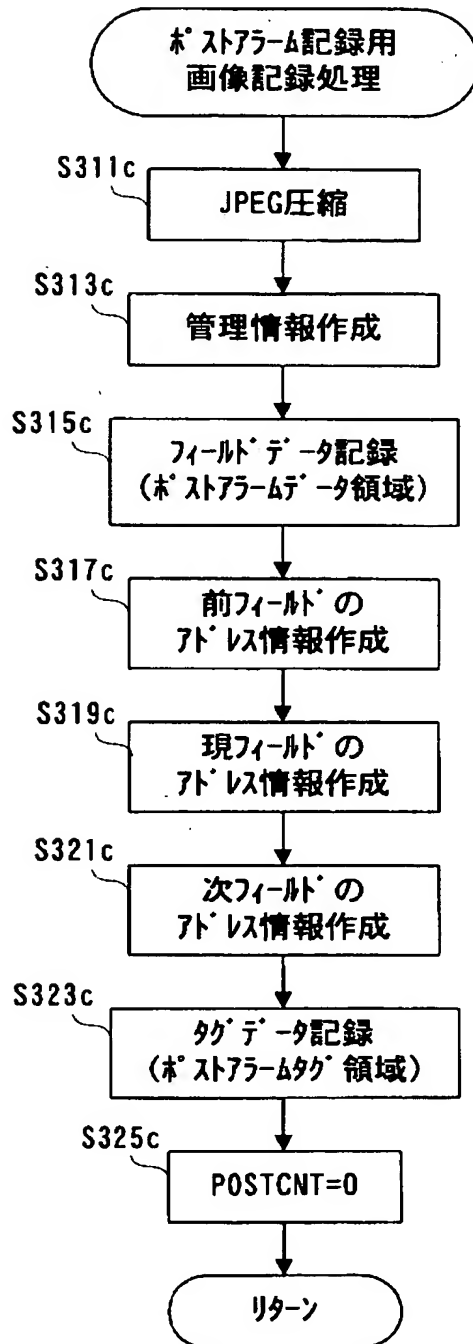
【図30】



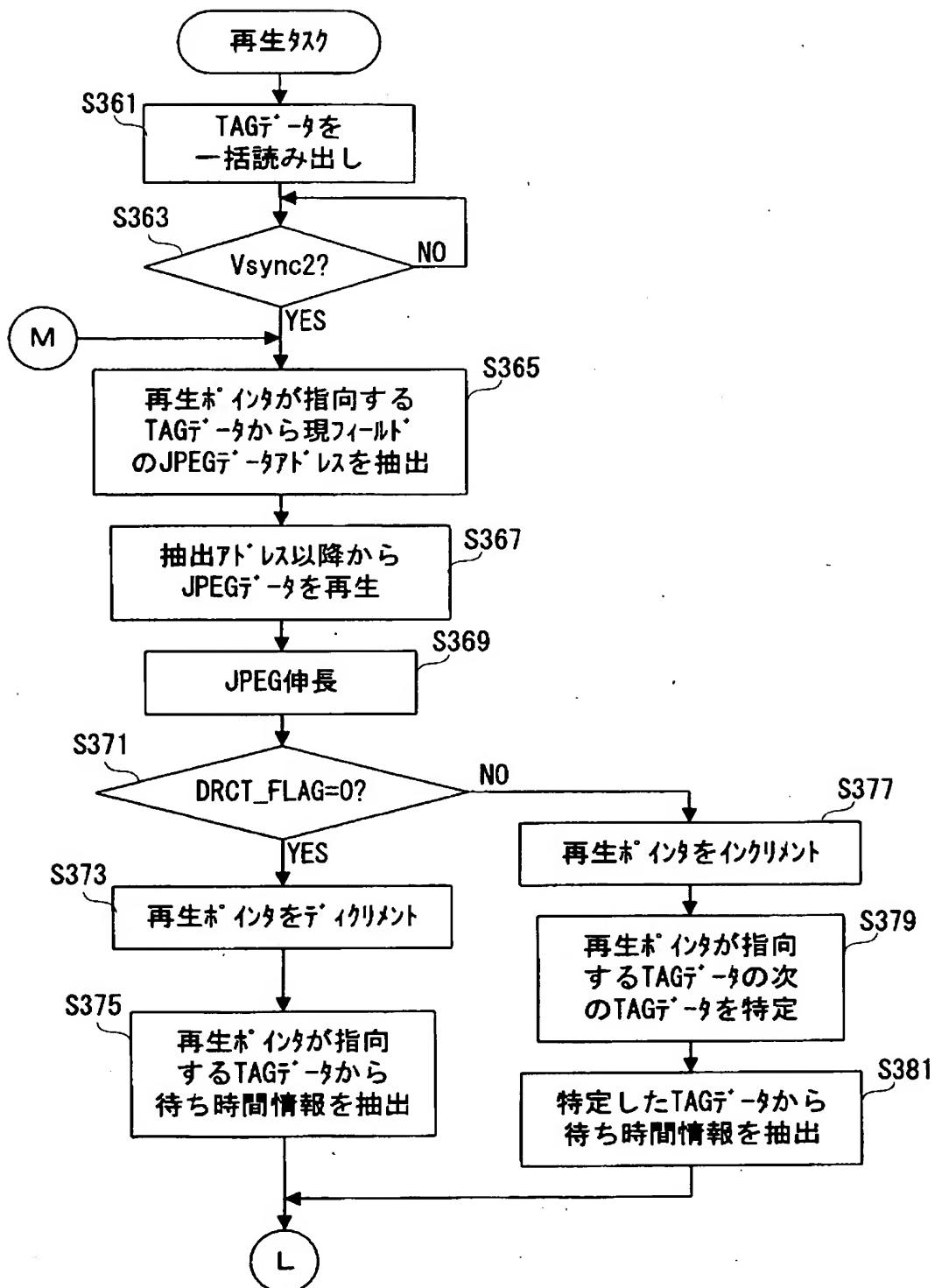
【図 31】



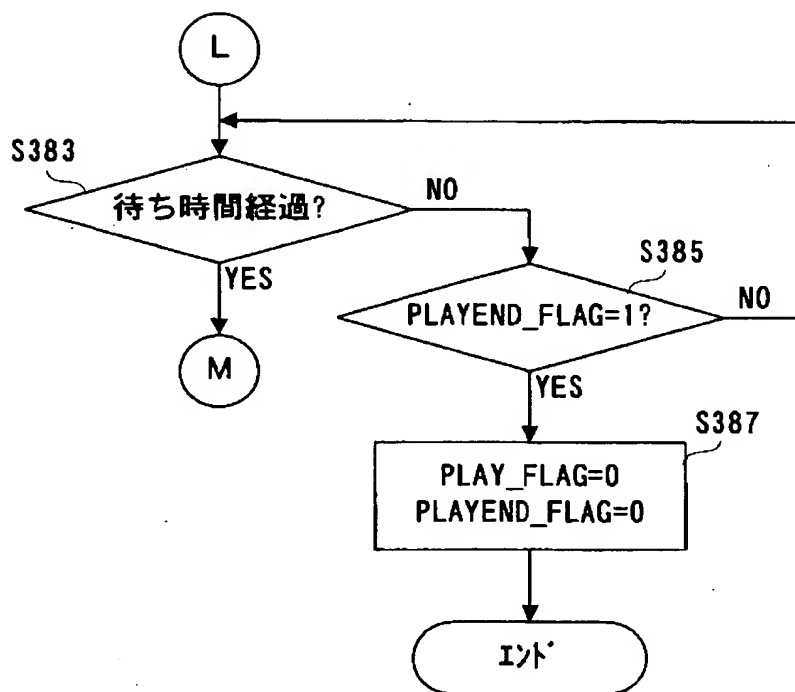
【図 3 2】



【図 33】



【図 34】



【書類名】 要約書

【要約】

【構成】 マルチプレクサ 1 4 に設けられたカメラ切換回路は、複数の監視カメラ C 1 ～ C 1 6 のいずれかを時分割で選択する。マルチプレクサ 1 4 に含まれる画像処理回路は、選択された監視カメラから出力された撮影画像信号を取り込み、記録ビットが” 1 ”の V B I 情報を記録モード設定に従うタイミングで当該撮影画像信号に付加する。H D R 1 6 は、V B I 情報に含まれる記録ビットが” 1 ”のとき、当該画像信号をハードディスクに記録する。

【効果】 所望の撮影画像信号のみをハードディスクに的確に記録することができる。

【選択図】 図 1



特願 2002-210423

出願人履歴情報

識別番号

[000001889]

1. 変更年月日

1990年 8月24日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地

氏 名

三洋電機株式会社

2. 変更年月日

1993年10月20日

[変更理由]

住所変更

住 所

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

氏 名

三洋電機株式会社